



# 馬術

## 競技公式ルール

*Special Olympics*





目次

1.	適用ルール	5
2.	公式種目	5
2.1	ブリティッシュ式種目	5
2.2	ウェスタン式種目	5
3.	競技ルール	5
3.1	アスリート	5
3.2	騎乗講習	6
3.3	エントリー締切日	6
3.4	補助犬	6
3.5	安全検査	6
3.6	馬具・用具の破損	6
3.7	スポッター	6
3.8	外からの支援に対する罰則適用	6
3.9	視覚による補助手段	6
3.10	課題の翻訳	6
3.11	世界大会における馬貸与	6
3.12	騎手と馬との相性	6
3.13	馬伝染性貧血検査	6
3.14	騎乗ルール	6
3.15	複数の騎手と馬	6
3.16	馬の変更	6
3.17	獣医師による判断	7
3.18	馬の健康状態	7
3.19	異議申し立て	7
4.	服装	7
4.1	服装	7
4.2	ブーツ	7
4.3	ヘルメット	7
4.4	番号	7
4.5	練習中の服装	7
4.6	参照ガイドライン	7
5.	馬具	7
5.1	鞍	7
5.2	アスリート所有の鞍	7
5.3	補正した鞍、個人所有の鞍	7
5.4	頭絡	7
5.5	無口（ホルター）	7
5.6	補装具	8
5.7	禁止馬具・用具	8
5.8	参照ガイドライン	8
6.	審査	8
6.1	審査の検討事項	8
6.2	結果の審査	8
6.3	許可を得ていない補助	8
6.4	参照ガイドライン	8
7.	競技会の主催	8
7.1	必要な施設と設備—全種目に共通する一般要件	8
7.2	招待とエントリー	9



7.3	ヘッドコーチミーティング	9
7.4	騎手と馬のマッチング	9
7.5	練習	9
8.	<b>ディビジョニング</b>	9
8.1	能力に応じた参加	9
8.2	定義	9
8.3	ディビジョンレベル	9
9.	<b>プリティッシュ式種目</b>	12
9.1	用語	12
9.2	服装	12
9.3	馬具	12
9.4	鎧	12
9.5	頭絡	13
9.6	騎手の姿勢	13
9.7	運動中の姿勢	13
10.1	一般事項（ドレッサージュ競技とプリカブレリ）	14
10.2	施設と設営	14
10.3	審査	15
10.4	歩様	17
10.5	騎手の姿勢と扶助	17
10.6	ドレッサージュ競技課目の実施	18
10.7	ドレッサージュ競技課目	19
11.1	一般事項（ドレッサージュ競技のセクションを参照すること）	26
11.2	施設と設営	26
11.3	審査	26
11.4	プリカブレリ競技課目	27
12.1	定義	30
12.2	競技のレベル	30
12.3	競技ルール	30
12.4	施設と設営	30
12.5	審査	30
12.6	姿勢の失敗（例は審査用紙を参照）	31
13.1	一般事項	33
13.2	審査手順と要件	33
13.3	プリティッシュ式エクイテーションの運動課目一審判は以下の運動課目から選ぶことができる	33
14.1	一般事項	38
14.2	審査	38
14.3	プリティッシュ式トレイルのエレメンツ	39
15.	<b>ウェスタン式種目</b>	45
15.1	ストック・シート馬術競技	45
15.2	ウェスタン騎乗	46
16.	<b>ウェスタン式ワーキング・トレイル</b>	52
16.1	一般事項	52
16.2	審査	52
16.3	ウェスタン式トレイルのエレメンツ	53
17.	<b>プリティッシュ式およびウェスタン式の種目：セクション B：ショーマンシップ</b>	61
17.1	一般事項	61
17.2	審査手順	62
17.3	審査	62
17.4	減点対象	64
18.	<b>プリティッシュ式およびウェスタン式種目：ジムカーナ</b>	64



18.1 一般事項.....	64
18.2 ポールベンディング.....	68
18.3 バレルレース（ウェスタン式のみ）.....	69
18.4 8の字ステークレース（ウェスタン式のみ）.....	70
18.5 チームリレー.....	71
<b>19. グループ種目：2名&amp;4名のドリルチーム.....</b>	<b>72</b>
19.1 一般事項.....	72
19.2 審査—200点満点.....	72
19.3 チーム構成.....	73
19.4 テーマ—音楽や衣装によって演出してもよい：.....	73
<b>20. グループ種目：ユニファイドスポーツ®チームリレー.....</b>	<b>73</b>
20.1 ユニファイドスポーツ®リレーチーム.....	73
20.2 求められるアスリート—パートナー比率.....	73
20.3 常歩のみ、および速歩のみのディビジョンが実施される。.....	73
20.4 ジムカーナ種目のチームリレールールを参照すること。.....	73
<b>21. グループ種目：ユニファイドスポーツ®ドリルチーム.....</b>	<b>73</b>
21.1 ユニファイドスポーツ®ドリルチーム.....	73
21.2 求められるアスリート—パートナー比率.....	73
21.3 上記のドリルチームルールに関するルールを参照すること。.....	73
<b>22. 付録 74</b>	
別表 A：エクイテーション騎手プロフィール.....	74



## 1. 適用ルール

スペシャルオリンピックスのエクイテーション公式スポーツルールは、すべてのスペシャルオリンピックスエクイテーションにおいて適用される。本ルールは、国際的なスポーツプログラムとして、国際馬術連盟（FEI）が定めるルール（<http://www.fei.org> を参照）に基づきスペシャルオリンピックス（SO）が定めたものである。FEI または国内競技団体（NGB）のルールを採用するが、それらとスペシャルオリンピックスのエクイテーション公式スポーツルールまたはスペシャルオリンピックススポーツルール第1章－総則との間で矛盾が生じる場合は、スペシャルオリンピックスのエクイテーション公式スポーツルールを適用するものとする。

参考：スペシャルオリンピックス スポーツルール第1章 総則

[http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general\\_rules.pdf](http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf)

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

## 2. 公式種目

種目の範囲は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。プログラムでは、提供する種目、および必要に応じてそれらの種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任を負う。

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

### 2.1 プリティッシュ式種目

- 2.1.1 ドレッサージュ競技（馬場馬術）
- 2.1.2 プリカブレリ
- 2.1.3 エクイテーション・ジャンプ（障害飛越馬術）
- 2.1.4 プリティッシュ式エクイテーション（事前演技として必須）
- 2.1.5 ワーキング・トレイル
- 2.1.6 ホルター／ブライドルクラスでのショーマンシップ
- 2.1.7 ジムカーナ種目
  - 2.1.7.1 ポールベンディング
  - 2.1.7.2 チームリレー
  - 2.1.7.3 騎乗コンセプト－CS、BS 騎手のためのジムカーナ種目
- 2.1.8 2人組、4人組のドリルチーム
- 2.1.9 ユニファイドスポーツ®チームリレー
- 2.1.10 ユニファイドスポーツ®ドリルチーム

### 2.2 ウェスタン式種目

- 2.2.1 ストック・シートエクイテーション（事前演技として必須）
- 2.2.2 ウェスタン騎乗
- 2.2.3 ホルター／ブライドルクラスでのショーマンシップ
- 2.2.4 ジムカーナ種目
  - 2.2.4.1 ポールベンディング
  - 2.2.4.2 バレルレース
  - 2.2.4.3 8の字ステークレース
  - 2.2.4.4 チームリレー
  - 2.2.4.5 騎乗コンセプト－CS、BS 騎手のためのジムカーナ種目
- 2.2.5 2人組、4人組のドリルチーム
- 2.2.6 ユニファイドスポーツ®チームリレー
- 2.2.7 ユニファイドスポーツ®ドリルチーム

## 3. 競技ルール

### 3.1 アスリート



エキシテーションに参加するアスリートは性別や年齢により区別されない。すべてのアスリートは競技能力に応じて競技をするものとする。

- 3.2 騎乗講習  
すべての騎手は競技参加前 6 ヶ月以内に 10 回以上の騎乗講習を受けていなければならない。
- 3.3 エントリー締切日  
エントリーはエントリー締め切り日までに大会運営側が受理していなければならない。締め切り後のエントリーは認められない。
- 3.4 補助犬  
盲導犬、介助犬 などの補助犬以外の犬は大会会場に立入禁止とする。
- 3.5 安全検査  
騎手の騎乗前に馬具や用具の安全検査を行う。
- 3.6 馬具・用具の破損  
競技中に馬具が壊れたり、靴が脱げたりした場合、騎手は演技を継続するか、またはコーチの要請により馬場から一時退場してもよい。
- 3.7 スポッター  
大会主催者によって任命されたスポッターは、単独騎乗を行う騎手に危険が生じた場合に補助できるよう、競技エリアの中で事前に定められた地点に立つ。審判より要請がない場合や、種目要件で指定がない場合、他の補助者が競技会場となる馬場に立ち入ることは許されない。
- 3.8 外からの支援に対する罰則適用  
外からの援助（馬場外からのコーチング）は審判の判断により減点となる場合がある。騎手と馬場外の個人間でコミュニケーションを行うための電子通信機器の使用は禁止されている。
- 3.9 視覚による補助手段  
聴覚障害のあるアスリートの場合にはキュー（指示）・カードの使用を認める。キューは誰もが同じように理解できるよう、以下のとおりとする：  
1=常歩、2=正座速歩（トロット／ジョグ）、3=軽速歩、4=駈歩（キャンター／ロープ）、0=半巻き乗り、一般的な止まれのサイン=一時停止
- 3.10 課題の翻訳  
世界大会において、審判が与える課題はすべて、騎手の母国語に翻訳されなければならない。騎手への号令は、コーチまたはコーチに任命された人によって行われる。
- 3.11 世界大会における馬貸与  
世界大会において、すべてのアスリートは大会組織委員会の用意する貸与馬で競技に参加する。
- 3.12 騎手と馬との相性  
自馬を連れてこない競技会の場合、馬と騎手との相性を判断するために十分な時間を設けなければならない。
- 3.13 馬伝染性貧血検査  
騎手が自馬を連れてくる競技会の場合、大会主催者は馬伝染性貧血検査の陰性証明を要求することができる。
- 3.14 騎乗ルール  
騎手は、競技会の全期間中すべての種目において同じ馬に騎乗しなければならない。
- 3.15 複数の騎手と馬  
騎手 2 名までが同じ馬を使用して競技することができる。騎手 2 名が同じ馬を使う場合、レベル A の騎手は 1 名のみとする。
- 3.16 馬に対する鎮痛剤使用について  
スペシャルオリンピックスの馬術のために、馬にいかなる状況においても鎮静剤は使用すべきではありません。
- 3.17 馬の変更



安全上の理由や馬が病気または体調不良であるときに限り、馬の変更が許される。

- 3.18 獣医師による判断  
審判の要請があった場合、クラスで入賞した馬が健康であるかどうかの最終判断は公式獣医師により行われ、その結果に基づき表彰を行うものとする。その他の場合においては、審判および馬匹責任者は馬が競技可能な状態であるかどうかについての最終判断を行うものとする。
- 3.19 馬の健康状態が完全ではなくても演技に必要とされる能力に大きく影響しないかぎりには競技参加者に対するペナルティは課されないものとする。ペナルティが課されるかどうかは審判が判断する。
- 3.20 異議申し立てのあった場合には大会主催者が審判（団）、競技スチュワードまたは／およびエクイテーションスポーツルール委員会の判断を仰ぐものとする。彼らによってなされた判断を最終的なものとする。

#### 4. 服装

- 4.1 服装は競技者としてふさわしいものとする。
- 4.2 ブーツ
  - 4.2.1 すべての騎手は踵のあるブーツを履かなければならない。
  - 4.2.2 身体の障害のため別の靴を履かなければならない騎手は、医師による意見書を騎手プロフィールと一緒に提出しなければならない。この場合、安全笠は必須とする。
  - 4.2.3 ブリティッシュスタイルの馬具を使用する騎手は、適切なブーツを履けない場合、ピーコック安全笠、S字形笠またはデボンシャーブーツを使用しなければならない。
- 4.3 ヘルメット：すべての騎手は ASTM-SEI 認証を受けたか BHS 基準を満たした 3 点チンハーネス付きの安全ヘルメットを着用しなければならない。馬の周囲で作業をする際にも同様とする。
- 4.4 番号：競技者は競技中、競技場の練習中、および競技の「ホールディング・エリア（待機馬場）」（ステージ）にいる間は、割り当てられた番号のゼッケンを背中にわかりやすく着用しなければならない。
- 4.5 練習中の服装  
練習中、アスリートはヘルメット、ブーツ、長ズボン着用のルールを遵守するものとするが、競技用上らん  
無しで半袖のシャツを着用してもよい。
- 4.6 参照ガイドライン  
異なる馬具スタイルに適した服装に関するガイドラインについては、本ルールブックのブリティッシュ式およびウェスタン式のセクションを参照すること。

#### 5. 馬具

- 5.1 鞍は馬にあったものを使用すること。適切な用具は、馬主との合意に基づき大会運営側が提供する。
- 5.2 アスリート所有の鞍  
アスリートは、騎乗する馬に合っている場合に限り、自分の鞍を使用してもよい。騎手は、自分の鞍の使用を予定している場合、騎手プロフィールでその旨を申告しなければならない。
- 5.3 補正した鞍、個人所有の鞍  
補正した鞍や個人所有の鞍は、事前に大会主催者および馬主による承認を必要とする。
- 5.4 頭絡はエントリーしたクラスに適したものであり、該当競技ルールに従ったものでなければならない。国際、全国、地区競技会ではすべての馬は競技前に銜を外してチェックを受けなくてはならない。
- 5.5 無口（ホルター）  
サポート有りのクラスでは無口（ホルター）着用を必須とする。引き綱は無口につけ、頭絡につけてはならない。無口は、銜や手綱の使用を妨げなければ、頭絡の内側につけても外側に付けてもよい。



- 5.6 補装具  
騎手は補装具を使用しても罰則を受けることはない。（注：いかなる方法であっても、騎手を馬や鞍に固定してはならない。）補装具の使用は騎手プロフィールで申告する必要がある。
- 5.7 禁止馬具・用具  
禁止されている馬具や用具（競技中だけでなく、準備運動中も禁止）：  
5.7.1 ベアリングレイン、サイドレイン、ランニングレイン  
5.7.2 シートカバー：アスリートが必要とする場合には騎手プロフィールで申告すること。  
5.7.3 ブーツとバンテージ：そのクラスに相当であるとして特に承認されている場合を除く。ブーツは、その馬が常用しており馬主が使用を望んだ場合に限り、使用可能。  
5.7.4 ブリンカー  
5.7.5 ノーズカバー
- 5.8 参照ガイドライン  
異なる乗馬スタイルに適した馬具のガイドラインについては、本ルールブックのブリティッシュ式およびウェスタン式のセクションを参照すること。

## 6. 審査

- 6.1 審査の検討事項  
以下の点（該当する場合）は、すべてのクラスの審査において同等に検討される：  
6.1.1 騎手のバランス  
6.1.2 騎手の騎座  
6.1.3 扶助の使用  
6.1.4 指示に従う能力、馬場におけるエチケットおよび安全性  
6.1.5 スポーツマンシップに則った行動
- 6.2 結果の審査  
審査の際には、馬の演技による結果と、その結果を得るために用いられた手法を同等に扱わなければならない。
- 6.3 許可を得ていない補助  
馬の調教師やサイドウォーカーによる補助は、許可されていない場合は、減点対象となる。  
6.3.1 サイドウォーカーは、緊急の場合を除き口頭での指示や特別な身体的補助を行ってはならない。  
6.3.2 視覚、聴覚、または重度の身体障害をもつアスリートについては特別に考慮する。  
6.3.3 コーチは自分がコーチするアスリートが審査を受けている間、馬の調教師、サイドウォーカーまたはスポッターの役割を果たしてはならない。
- 6.4 参照ガイドライン  
各種目における審査のガイドラインについては、本ルールブックのブリティッシュ式およびウェスタン式のセクションを参照すること。

## 7. 競技会の主催

- 7.1 必要な施設と設備—全種目に共通する一般要件  
7.1.1 音響設備  
7.1.2 観客誘導および進入禁止区域指定に用いる可動フェンス等  
7.1.3 アリーナ／馬場の入退場門から十分離れた指定場所に設置された観客席  
7.1.4 競技中、審査されているアスリートの邪魔にならないよう競技用の馬場から十分離れた場所に設置された練習用／待機馬場。  
7.1.5 騎乗するために使う頑丈なスロープあるいは昇降台。  
7.1.6 頑丈な柵や門が設置され、水はけが良く十分に平坦な馬場面があり、少なくとも以下の面積をとることのできるアリーナ：  
7.1.6.1 ブリカブレリ：70m×30m 以上





- 7.1.6.2 エクイテーション・ジャンプ（障害飛越馬術）：60m×30m 以上
- 7.1.6.3 ジムカーナ種目、ドレッサージュ、ウェスタン騎乗、ドリルチーム：50m×30m
- 7.1.6.4 ワーキング・トレイル、ショーマンシップ、エクイテーション：30m×25m
- 7.1.6.5 待機馬場：40m×20m、または直線 35m 以上がとれ短辺が 20m 以上ある全体が柵で囲われた任意の形状

## 7.2 招待とエントリー

- 7.2.1 大会運営側は、日付、時間、会場、申込書類の締め切り、種目その他の重要なデータを含む招待状を発送する。
- 7.2.2 競技会参加に関心のある者は、エントリー用紙と漏れなく記載した騎手プロフィールを期限内に提出しなければならない。

## 7.3 ヘッドコーチミーティング

- 7.3.1 競技開始の前に、大会運営側はヘッドコーチミーティングの日時を設定し、参加者が使用する施設について分かるような機会を持つ。
- 7.3.2 大会運営側は、競技会が正しく行われるために必要となるすべての重要な情報について、参加者に提供する責任がある。
- 7.3.3 大会運営側は、参加者からのすべての質問について正確で詳細な返答を行う義務がある。必要に応じて、大会運営側は別のヘッドコーチミーティングの日付を設定する。

## 7.4 騎手と馬のマッチング

スペシャルオリンピックス馬術の大きな特徴は、馬が大会運営側から提供されることである。マッチングは最初にして、最も重要な段階の1つである。主催者は、騎手プロフィールに記載された情報に基づき、騎乗する馬を騎手に提案する。このため、このプロフィールを最大限の配慮と注意を持って記載することが重要となる。これは、コーチの責任である。

## 7.5 練習

- 7.5.1 騎手が自馬を連れてこない場合、騎手と馬との相性を判断するために十分な時間を設けなければならない。
- 7.5.2 すべての騎手は、出場する競技種目のエレメントを練習する権利がある。そのため、大会運営側は以下の場所を提供しなければならない。
  - 7.5.2.1 練習用馬場
  - 7.5.2.2 ドレッサージュ用アリーナ：ドレッサージュおよびプリカプレリの参加騎手用
  - 7.5.2.3 ワーキング・トレイルのいくつかの難しいエレメント：ワーキング・トレイルの参加騎手用
  - 7.5.2.4 ジムカーナ種目のエレメント
  - 7.5.2.5 エクイテーション・ジャンプ（障害飛越馬術）：ジャンプに出場する騎手のために待機馬場には2つの障害を用意
- 7.5.3 練習中に、コーチはその馬が騎手に合っているかどうか、最終的に明らかな確証を得なければならない。この段階では、安全上の理由から騎乗する馬を変更することが認められる。事前演技後は、馬が病気か体調不良の場合に限り、変更が可能となる。

## 8. ディビジョニング

### 8.1 能力に応じた参加

すべての騎手は能力に応じて競技に参加することを忘れてはならない。エクイテーションに参加するアスリートは性別や年齢により区別されない。スペシャルオリンピックススポーツルールに準じ、1つのディビジョンは3～8名の騎手で構成される。

### 8.2 定義

- 8.2.1 サポート（S）：騎手が、サイドウォーカーとリーダーの双方またはどちらか1～2名の身体的なサポートを必要とする。アリーナ内で行われる手助けはすべて「サポート」とみなされる。
- 8.2.2 単独騎乗（I）：単独騎乗を行う騎手は、競技中はサポートされない。

### 8.3 ディビジョンレベル：

- 8.3.1 レベルA：常歩、速歩（ Trot / Jog ）、駈歩（ Canter / Loop ）。単独騎乗者のみ。騎手は国内競技団体ルールを変更することなく競技に参加することを求められる。ク



- ラスで要求されるすべての運動を行うことができる。
- 8.3.2 レベル B：常歩、速歩（トロット／ジョグ）
    - 8.3.2.1 BI：単独騎乗者で、クラスで要求されるすべての運動を行うことができる。
    - 8.3.2.2 BS：サポートあり、身体的にクラスで要求されるすべての運動を行うことができる。
  - 8.3.3 レベル C：騎手は常歩のみ行う。
    - 8.3.3.1 CI：単独騎乗者。
    - 8.3.3.2 CS：サポートあり。
  - 8.3.4 騎手のディビジョンレベル



種目	ブリティッシュ式 ／ウェスタン式	CS	CI	BS	BI	A
ドレッサージュ競技（馬場馬術）	ブリティッシュ式	不可	可	不可	可	可
ブリカブレリ	ブリティッシュ式	不可	不可	不可	不可	可
エクイテーション・ジャンプ （障害飛越馬術）	ブリティッシュ式	不可	可	不可	可	可
ブリティッシュ式エクイテーション	ブリティッシュ式	可	可	可	可	可
ブリティッシュ式ワーキング・トレイル	ブリティッシュ式	可	可	可	可	可
ストック・シートエクイテーション	ウェスタン式	可	可	可	可	可
ウェスタンス式ワーキング・トレイル	ウェスタン式	可	可	可	可	可
ジムカーナーポールバンディング	両方	不可	可	不可	可	可
ジムカーナーバレルレース	ウェスタン式	不可	不可	不可	可	可
ジムカーナー8の字	ウェスタン式	不可	不可	不可	可	可
ジムカーナー騎乗コンセプト	両方	可	不可	可	不可	不可
ジムカーナーチームリレー	両方	可	可	可	可	可
ホルター／ブライドルクラスでのショー マンシップ	両方	不可	可	不可	可	可
ドリルチーム	両方	可	可	可	可	可
ユニファイドスポーツ®チームリレー	両方	可	可	可	可	可
ユニファイドスポーツ®ドリルチーム	両方	可	可	可	可	可

8.3.4.1 ディビジョニングの第1段階：

- 8.3.4.1.1 騎手は各種目で要求される運動内容を安全にやり遂げる能力に応じたレベルのディビジョン（CS、CI、BS、BI、A）に分けられる。この能力は、スペシャルオリンピックのコーチが騎手プロフィールに事前に記入し、アスリートのエントリー用紙とともに提出する。
- 8.3.4.1.2 騎手プロフィールには身体上の理由により踵のあるブーツを履くことが出来ないことを記入すること。なお、医師による意見書が必要。
- 8.3.4.1.3 大会運営に際しての注意—これらの状況は審査用紙および騎手の背中のゼッケン番号に印を付けておかなければならない。騎手は、登録するディビジョンに含まれる種目であれば、いずれの、あるいはすべての種目に参加可能であるが、複数のディビジョンレベルに参加することはできない。

8.3.4.2 ディビジョニングの第2段階—事前演技：

- i. すべての騎手が受けなければならない。
- ii. 騎手を適切な能力のディビジョンに分けるため、ブリティッシュ式エクイテーションおよびストック・シートエクイテーションの演技が行われる。
- iii. 騎手と馬のマッチング および練習の終了後、すべての騎手はエクイテーションの事前演技に参加する。
- iv. すべての演技は騎手プロフィールで申告したディビジョンレベルに適したものであるとする。
- v. すべての事前演技の内容は競技開始前に告知する必要がある（ヘッドコーチミーティングの場やコーチ用ハンドブックにおいて等）。エクイテーションの演技内容に規定はない。審判は採点表で求められる内容を実施するよう騎手に求める。



- vi. この段階における審判の役割は重大である！競技者は、事前演技の結果に基づき、同等の能力を持つ騎手と競えるよう適切なディビジョンと順序を割り当てられる。未熟な演技、平均的演技、および非常に良い演技に区別するため、審判は騎手の能力を正確に評価することが重要である。

## 9. ブリティッシュ式種目

### 9.1 用語

- 9.1.1 「オンザビット（銜受け）」：銜を受けている馬は、抵抗なく手綱の軽いコンタクトを受け入れ、騎手の拳に従って顎と項を動かす。さらに、馬は手綱に従い前進するよう指示する騎手の扶助を受け入れる。銜を受けている馬は背中が柔らかい状態で運動し、移行の際に抵抗を示さず、騎手に従順な状態を維持する。
- 9.1.2 移行とは、運歩や歩度を変えることをいう。移行は速やかに行うべきだが、滑らかかつ突発的でない動きでなければならない。移行の際も馬との間で軽いコンタクトを保ち、馬が落ち着いた状態で正しい姿勢を維持していなければならない。
- 9.1.3 停止：停止の際は馬は注意深く立ち、不動かつ真直であり、体重は四肢に均等にかける。これは馬の両前肢・後肢が横に並んでいるかどうかで見分けがつく。
- 9.1.4 手前斜体歩：軽速歩においては、騎手は外側の前肢が前に出たときに立ち、内側の前肢が前に出たときに座る。
- 9.1.5 手前変換：駈歩においては、内側の前肢が足取りを導くようにすること。騎手が方向を変えるときは、以下のうちいずれかの方法で馬の先行する足を変えるか手前変換をしなければならない：
- 9.1.5.1 馬を一度停止させてからの手前変換では馬を完全に停止させたのち、直ちに正しい手前での駈歩発進を行う。
- 9.1.5.2 シンプルチェンジでは、常歩または速歩を入れたのち、逆の手前での駈歩発進を行う。常歩または速歩は3～4間歩以内とする。
- 9.1.5.3 フライングチェンジでは、馬が駈歩を継続したまま空中の間歩の中で手前変換を行う。前肢と後肢が同時に変換されなければならない。
- 9.1.6 半巻き乗り／リバース：半巻き乗り／リバースは方向変換であり、蹄跡から外れる方向へ行う。
- 9.1.6.1 方向変換においては、馬は新しく進む線に沿ってその体を屈曲させる。
- 9.1.6.2 馬は柔軟な状態のまま、運歩やリズム、歩度を変えることなく騎手の扶助に従わなければならない。
- 9.1.6.3 軽速歩においては、騎手は斜め手前変換をする。
- 9.1.6.4 駈歩においては、馬は手前変換を行う。

### 9.2 服装

- 9.2.1 短い、濃い色の乗馬ジャケット。
- 9.2.2 地味な色の（白が好ましい）乗馬用ショーシャツ。またはオックスフォードスタイルの長袖または半袖のシャツ。
- 9.2.3 ネクタイまたはチョーカー。
- 9.2.4 乗馬ズボン。
- 9.2.5 手袋の着用は任意。
- 9.2.6 悪天候の場合、アスリートはヘルメットカバーや地味な色のレインコートの着用が認められる。
- 9.2.7 極度に高温な日（80F°、27C°以上）には、審判の判断により乗馬ジャケットを着用せずに競技に参加することを認める場合がある。
- 9.2.8 踵のあるブーツ。
- 9.2.9 承認されたヘルメット。

### 9.3 馬具

- 9.3.1 タイプは問わないがブリティッシュ鞍を使用すること。
- 9.3.2 先端を含めて長さ1m（3フィート3.5インチ）以内の鞭1本を所持してもよい。鞭の使用は、鞭を使用されることに馬が慣れていると馬主が述べた場合に限り、許可される。騎手の脚力が弱い場合、自由に動かせる馬か鞭の使用に慣れた馬を割り当てなければならない。

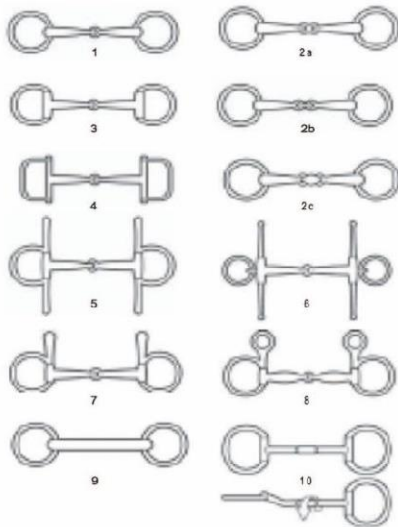
### 9.4 鎧



- 9.4.1 騎手が適切なブーツを履けない場合以外、安全鏡の使用は必須としない。
- 9.4.2 騎手は、大会運営側が持込みを禁止し、競技会の前にエントリー情報やコーチハンドブックにてその旨を明記していない限り、競技会には安全鏡と鏡革を必ず持参すること。

9.5 頭絡

- 9.5.1 通常のカブソン鼻革（フランス鼻革）、ドロップ鼻革（ドイツ鼻革）、クロス鼻革（メキシカン鼻革）、もしくはフラッシュ鼻革（コンビ鼻革）を使用すること。
- 9.5.2 水勒銜を使用すること。
- 9.5.3 すべての銜は滑らかで頑丈でなければならない。
- 9.5.4 馬の口に入る銜のすべての部分（すなわち銜身）は、2種類以上の金属もしくはその他の材質で作られるものとする。



水勒銜の種類：

1. ルーズリング銜環
2. (a, b, c) 中央のジョイント部が丸みを帯びたジョイント銜身の銜環
3. エッグバット銜環
4. レース用 D リング銜環
5. チーク付きエッグバット銜環（フルマー）
6. チーク付きルーズリング銜環
7. アッパーハーフチーク銜環
8. ハンギングチーク銜環
9. 棒銜環
10. 回転式銜身の付いた銜環

9.6 騎手の姿勢

- 9.6.1 騎手は、演技者らしい外見でなければならない。騎座と拳は軽く柔軟でなくてはならない。また騎手は緊急の場合にも落ち着いている印象を与えなければならない。

9.6.2 基本姿勢：

- 視線は上
- 肩は後ろに引いた状態
- 上体は真っ直ぐだが、堅苦しくない
- つま先は騎手の体型にあわせて最も適切な角度をもつ
- 踵は下げる
- ふくらはぎと太ももは馬に触れていて腹帯よりやや後にある
- 鏡は親指の付け根あたりで踏む（腹帯に結び付けてはいけない）

9.6.3 拳の位置

- 拳は左右に若干開き、馬のき甲の上かつ前の位置に置く。指の付け根を内側に 30 度傾け、馬の口から騎手の肘までが直線になるようにする。
- 手綱の持ち方は自由で、余った部分は左右どちらに垂らしてもよい。
- 左右の手綱を同時に持たなければならない。

9.7 運動中の姿勢：

- 9.7.1 常歩、正反撞の速歩、駈歩では上体は垂直か、やや前傾姿勢。
- 9.7.2 軽速歩では上体を前傾姿勢か、垂直姿勢。  
襲歩、障害飛越では上体を前傾姿勢か、垂直姿勢。



10. ドレッシング競技（馬場馬術）

種目	CS	CI	BS	BI	A
ドレッシング競技 （馬場馬術）	不可	可	不可	可	可

10.1 一般事項（ドレッシング競技とプリカプレリ）

10.1.1 ドレッシング競技（馬場馬術）の目的は、馬の身体と能力の調和のとれた発達にある。

騎手とコミュニケーションし、理解する結果として、馬が冷静、柔軟かつバランスの良い状態にあるだけでなく、自信をもち、集中力を保ち、鋭敏な状態になる。したがって、馬が自主的に要求された運動を行っているかのような印象を与える。自信をもち、集中力を保つことで、騎手の指示を自然に受け入れるようになる。

10.1.2 すべてのドレッシング競技の演技を通し、騎手は馬が「オンザビット（銜受け）」の状態を維持するよう努力する必要がある。オンザビットは馬と騎手が安定的・継続的に取り組むことで得られる技術である。このため貸与馬で行う競技会の場合、適度な銜受けでよいものとする。

10.2 施設と設営

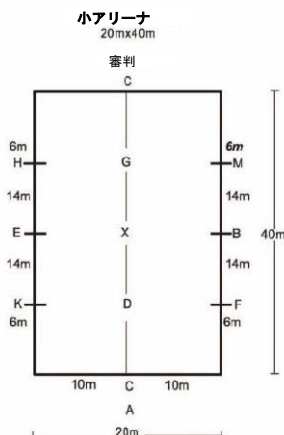
10.2.1 アリーナはできるだけ平坦な路面で、面積は 40m×20m とする。この大きさは仕切りの内側で測る。

10.2.2 仕切り本体は高さ 30cm（12 インチ）程度の低い柵で構築する。A 地点の柵は競技者がアリーナの入退場を行うために簡単に取り外しできること。A 地点はアリーナから 5m 以上離れた場所に設置する。

10.2.3 各地点の文字は、柵から 50cm 程度離れたアリーナの外側に設置する。すべての文字は、遠くからも見えるよう明確に表示され、十分な大きさであること。



10.2.4 審判が各文字の配置をアリーナの反対側からも識別できるよう、柵の内側に赤い杭を立てるか柵に赤線を引く。



10.2.5 中央線と中央線上の3地点 D、X、G は、可能な限り明確に印を付ける。芝アリーナの場合、中央線の芝はそれ以外と比べ短く刈ること。砂アリーナの場合、ローラーやレーキ等で中央線を引くこと。

10.2.6 馬の気が散らないような範囲であれば、アリーナを花や草木で飾ってもよい。

10.2.7 審判の位置

10.2.7.1 審判は2名いることが望ましい。その場合はC地点に1名とB地点またはE地点に1名とする。

10.2.7.2 審判が1名のみ場合は、アリーナの端から5メートル離れたC地点に配置する。

10.2.7.3 審判員用ブースは1人1つ用意する。審判がアリーナを見やすくするため、ブースの高さは路面より50cm以上とする。

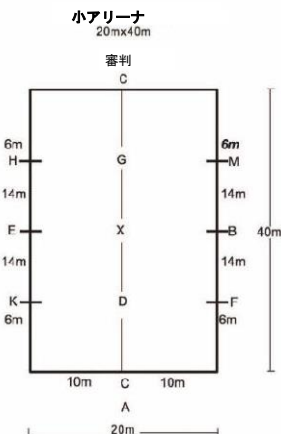
10.2.8 小アリーナの図

10.3 審査

10.3.1 ドレスサージュ競技の演技において各運動内容に対する採点は、十分に運動が行われたか（5点以上）、行われなかったか（4点以下）の事実を第一にはっきりさせる必要がある。

10.3.2 不正確であることで運動の難易度が下がる場合にのみ、正確さ（適度）を判断要因とする。

10.3.3 アリーナ内の特定の地点である運動を行わなければならない場合、競技者の身体がその地点に来た時にその運動を行う必要がある。





- 10.3.4 問題が起きた場合、1度目であれば審判によっては軽く扱われる場合がある。繰り返し問題が生じた場合は、より厳しく減点される。
- 10.3.5 人馬転倒や落馬の場合、アスリートを失権としない。ただし、転倒や落馬が予定していた運動の実施に与える影響により、また総合観察点においても減点される。
- 10.3.6 演技中に馬がアリーナを出てしまった場合（四肢すべてが柵またはアリーナ外周線の外に出た場合）、騎手は失権となるが、審判の裁量によって、演技は最後まで続けてもよい。
- 10.3.7 アスリートが騎乗終了時に、演技で規定されていない方法でアリーナを退場した場合、誤りとして減点される。
- 10.3.8 不測の事態が起き演技に支障をきたした場合、審判の判断により、演技を中断したり、アスリートが最初もしくは適切なポイントからやり直したりすることを認める場合がある。
- 10.3.9 入場のベルまたは笛が鳴ったら、騎手は90秒以内にアリーナに入場する。時間内に入場できなかった場合、騎手は失権となる。
- 10.3.10 事前に予定された時間より早いタイミングで騎手に演技を求めるには、1～2時間前に通知をしなければならない。
- 10.3.11 審判の採点対象としなければならないすべての運動および一定の運動間の移行については、審判の審査用紙に番号が割り振られる。各運動は0から10までの10段階で採点される。最低点は0点とし、要求される運動そのものが実施されなかった場合に運動の「不実施」として最低点をつけられる。10点は最高点である。
- 10.3.12 採点区分は以下のとおりとする：
- |           |          |
|-----------|----------|
| 10 優秀     | 5 まず可と見る |
| 9 極めて良好   | 4 不十分    |
| 8 良好      | 3 やや不良   |
| 7 かなり良好   | 2 不良     |
| 6 満足すべき演技 | 1 極めて不良  |
|           | 0 不実施    |
- 10.3.13 総合観察点および難易度の高い運動／繰り返し行われる運動については係数が与えられ、それらの得点に係数を掛けることとする。なお、係数は審査用紙に記載されている。
- 10.3.14 総合観察点は、アスリートの演技終了後、以下のカテゴリーごとに付与される：
- 10.3.14.1 騎手のバランスと姿勢。
- 10.3.14.2 馬術的な感覚と技術、扶助の有効性。
- 10.3.14.3 騎手の自信、馬のアクティビティ（活発さ）の維持。
- 10.3.14.4 馬を誘導する騎手の能力と正確さ。
- 10.3.15 各演技が終了し、審判が総合観察点をつけ終わると、スコアラーが審査用紙を回収し、得点を以下の手順で一覧にする：
- 10.3.15.1 該当する箇所については対応する係数を掛け、合計得点を計算する。
- 10.3.15.2 その後、演技実施中の違反による減点を各審査用紙の合計得点から差し引く。
- 10.3.15.3 クラス分けのための得点は、各審査用紙の合計得点を足すことで算出される。
- 10.3.15.4 2名以上の審判がいる場合、総合得点がクラス分けに使用される。





- 10.3.15.52 名以上の審判がいる場合、総合得点とは別に各審判による審査結果も公表する。
- 10.3.15.6 すべての競技において、1位は一番高い総合得点を得たアスリートとする。2位は2番目に総合得点が高いアスリートとし、以降も同様の手順で決定する。
- 10.3.15.72 人のアスリートが同じ総合得点となった場合、総合観察点の高い者を上位とする。
- 10.3.15.8 総合観察点も同点だった場合、審判は審査用紙を見直す必要があり、それに基づき順位を決定するか、同位のままとする。

## 10.4 歩様

### 10.4.1 停止

- 10.4.1.1 停止において馬の頸は起こして項は高い位置、頭が垂直よりやや前方に傾いている姿勢とする。
- 10.4.1.2 馬は「オンザビット（銜受け）」の状態できれいコンタクトを騎手の拳と保ち、静かに銜をかみ、騎手からのわずかな指示で動き出せる態勢にあるべきである。

### 10.4.2 常歩

- 10.4.2.1 **尋常常歩**：規則的、かつ堅苦しさのない常歩で、馬は活力があるが落ち着いており、均等でしっかりと歩幅とリズムを刻みながら明確に4拍子で歩く。後肢は前肢の着地点よりも前に踏み込む。騎手は馬の口と軽く安定したコンタクトを保つ。
- 10.4.2.2 **中間常歩**：自由で規則的、かつ堅苦しさのない常歩で、ある程度伸長させ、均等かつしっかりと歩幅で歩く。後肢は前肢の着地点よりも前に着地する。騎手は馬の口と軽く安定したコンタクトを保つ。
- 10.4.2.3 **自由常歩**：馬がリラックスした状態の運歩であり、頭と頸はさげて前に伸ばし完全に自由を与えられて歩く。

### 10.4.3 速歩：速歩では以下の種類が認められる：

- 10.4.3.1 **尋常速歩**：馬は「オンザビット（銜受け）」の状態を維持しながら適切なバランスで運動し、均等な歩幅のバネのある歩様で、飛節の良好な動きを示しながら前進する。「飛節の良好な動き」とは収縮の要素が不可欠という意味ではない。後肢のアクティビティ（活発さ）がもたらす前進気勢（インパルジョン）の重要性を強調するものである。
- 10.4.3.2 **中間速歩**：馬はより「丸み」のあるフレームで前進し、自由かつある程度の伸展が見られる歩幅で、後肢がもたらす明確な前進気勢（インパルジョン）を示す。騎手は馬を「オンザビット（銜受け）」の状態を維持しつつ、頭を垂直より少し前に出し、同時に頭と首が多少下がってくることを許す。出来る限り均等なリズムを刻み、全体的にバランスがとれた状態で伸び伸びと前進する必要がある。

### 10.4.4 駢歩：駢歩では以下の種類が認められる：

- 10.4.4.1 **尋常駢歩**：馬は「オンザビット（銜受け）」の状態を維持しながら適切なバランスで運動し、均等な歩幅の軽く弾発性（ケイダンス）のある歩様で、後肢による押し出しで前進する。後肢のアクティビティ（活発さ）がもたらす前進気勢（インパルジョン）の重要性を強調するものである。
- 10.4.4.2 **中間駢歩**：馬は自由にバランスが取れ、かつある程度の伸展が見られる歩幅で前進し、後肢がもたらす明確な前進気勢（インパルジョン）を示す。騎手は馬を「オンザビット（銜受け）」の状態を維持しつつ、頭を垂直より少し前に出し、頭と首が多少下がってくることを許す。

## 10.5 騎手の姿勢と扶助



- 10.5.1 すべての運動の実施に際しては、騎手による扶助の取り組みがあからさまに見えてはならない。
- 10.5.2 アスリートは良いバランスを保ち、脚は安定させる。
- 10.5.3 上体は無理なく、自然に真っ直ぐに起こす。
- 10.5.4 両拳は、互いに接近しているが触れ合わずに、また馬体にも触れることなく低い位置に下げ。親指を上にして保つこと。
- 10.5.5 両肘と両腕を体に近づけることで騎手が馬の動きにスムーズかつ自由についていき、目立たずに扶助を使用することができる。
- 10.5.6 騎乗の際は、必ず両拳で手綱を持たなければならない。
- 10.6 ドレスージュ競技課目の実施
- 10.6.1 運動課目の読み上げ
- 10.6.1.1 すべてのスペシャルオリンピックスドレスージュ競技およびブリカプレリの運動課目は読み上げてもよい。
- 10.6.1.2 運動課目の読み上げが必要な場合、読み上げる人員を手配するのはコーチの責任である。世界大会においては、コーチがアスリートの母国語で運動課目を読み上げてもよい。
- 10.6.1.3 運動内容の読み上げの遅滞および運動課目の読み間違いによる違反は、一般の違反と同様に騎手の減点対象となる。
- 10.6.1.4 運動課目の読み上げは、書かれているとおりの運動内容について1回に限り許される。コーラーによる運動名の繰り返しは、許可されていない補助とみなされる。
- 10.6.1.5 安全上必要な場合を除き、運動課目の読み上げ人を含むいかなる人からも許可されていない補助は禁止されており、失権の原因となる。
- 10.6.2 敬礼
- 10.6.2.1 敬礼時、騎手は手綱を片手にまとめて持ち、もう一方の腕を体に沿って下ろし、軽く頭を下げなければならない。
- 10.6.3 声
- 10.6.3.1 一度または繰り返しの舌鼓を含む一切の声の使用は重大な過失であり、行為が行われた時点で運動に対する少なくとも1~2点の減点となる。
- 10.6.4 違反
- 10.6.4.1 アスリートが「経路違反」をした場合（例：回転を間違えたり、運動を抜かすなど）、審判はベルを鳴らすか笛を吹くことでアスリートに警告する。必要があれば審判はアスリートに運動課目をやり直す場所と、次に行われるべき運動を示す。その後、審判はアスリートに補助なしで運動を再開させる。
- 10.6.4.2 場合によっては、「経路違反」の際にベルを鳴らしてしまうとアスリートの演技の流れを不必要に崩してしまう恐れがある。このような場合、ベルを鳴らすかどうかは審判が判断する。
- 10.6.4.3 スペシャルオリンピックスの運動課目では、ベルが鳴らされたかどうかにかかわらず、すべての「経路違反」は以下のとおり減点しなければならない：
- 1回目 1点減点
  - 2回目 2点減点
  - 3回目 4点減点
  - 4回目 失権、ただしアスリートは最後まで演技を継続してもよい。
- 10.6.4.4 アスリートが「運動課目の誤り」を犯した場合（例：敬礼時に手綱を片手で持たないなど）、アスリートは「経路違反」と同様に減点される。騎手が演技終了時に、運動課目で規定されていない方法でアリーナを退場した場合、同様に減点される。



- 10.6.4.5 審判が違反に気付かなかった場合、アスリートは疑わしきは罰せずの原則により減点されない。
- 10.6.4.6 減点はアスリートが獲得した各審査用紙の合計得点から差し引かれる。
- 10.7 ドレッシング競技課目
  - 10.7.1 ドレッシング競技におけるすべての速歩運動は、競技者の希望により正反撞あるいは軽速歩で騎乗となる。
  - 10.7.2 各運動課目は5分以内に終了しなければならない。
  - 10.7.3 スペシャルオリンピックスの競技会で行われるドレッシング競技の運動課目は以下のとおりとする。これらの用紙は審査用紙として使用してもよい。



2017年ニュージーランド夏季全国大会



決勝

エクイテーション レベル A ドレッシング (常歩-速歩-駆歩) 課目 1

競技名: EQ エクイテーション ドレッシング

ディビジョン 1

騎乗者氏名: マイク・ライアン

騎乗者番号: 999

所属: LNW.MTU

馬名: Neddy

採点区分

10 優秀	9 極めて良好	8 良好
7 かなり良好	6 満足すべき演技	5 まず可と見る
4 不十分	3 やや不良	2 不良
1 極めて不良	0 不実施	

経路違反:

1 回目の違反	1 点減点
2 回目の違反	2 点減点
3 回目の違反	4 点減点
4 回目の違反	失権

運動課目		点数係数合計			備考
1. AC	尋常速歩で入場し停止せず中央線を進む。 右手前蹄跡に入る	10			
2. MXF	M-X-F 山形乗り	10			
3. FA 間	右へ尋常駆歩で発進	10			
4. E	右へ直径 20m の輪乗り	10			
5. H	尋常速歩	10			
6. B Bの手前 B	右へ直径 20m の輪乗り、徐々に手綱を伸ばした軽速歩。 徐々に手綱を詰める。 尋常速歩で蹄跡行進	10	2		
7. A	中間常歩	10			
8. KXM M	手綱を伸ばした自由常歩 中間常歩	10	2		
9. C	尋常速歩	10			
10. HXK	H-X-K 山形乗り	10			
11. KA 間	左へ尋常駆歩で発進	10			
12. B	左へ直径 20m の輪乗り	10			
13. M	尋常速歩	10			
14. EB	左へ回転 右へ回転	10			
15. A X	中央線に入る 中間常歩から停止 敬礼	10			

自由常歩で A から退場

総合観察点	得点			備考
運歩 (自由と規則性)	10	2		
前進氣勢 (インバルジョン) (動きへの意欲、前進、しなやかな歩きと柔軟な背)	10	2		
従順性 (扶助の受け入れ、自信、バランス、動きの軽さと容易さ)	10	2		
騎手の姿勢と騎座 (扶助の正確さと効果)	10	2		

最高得点 250 点

小計: \_\_\_\_\_

違反: (一 ) \_\_\_\_\_

合計得点: \_\_\_\_\_

得点率: \_\_\_\_\_

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

2017年7月改訂



2017年ニュージーランド夏季全国大会



決勝

エクイテーション レベル A ドレッシング (常歩-速歩-駆歩) 課目 2

競技名: EQ エクイテーション ドレッシング

ディビジョン 1

騎乗者氏名: マイク・ライアン

騎乗者番号: 999

所属: LNW.MTU

馬名: Neddy

採点区分

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 10 優秀   | 9 極めて良好   | 8 良好     |
| 7 かなり良好 | 6 満足すべき演技 | 5 まず可と見る |
| 4 不十分   | 3 やや不良    | 2 不良     |
| 1 極めて不良 | 0 不実施     |          |

経路違反:

- |         |       |
|---------|-------|
| 1 回目の違反 | 1 点減点 |
| 2 回目の違反 | 2 点減点 |
| 3 回目の違反 | 4 点減点 |
| 4 回目の違反 | 失権    |

運動課目		点数係数合計			備考
1. A C	尋常速歩で入場し停止せず中央線を進む。 左手前蹄跡に入る	10			
2. E	左へ直径 20m の輪乗り	10			
3. KA 間	左へ尋常駆歩で発進	10			
4. A	左へ直径 20m の輪乗り	10			
5. BM 間	尋常速歩	10			
6. C	中間常歩	10			
7. HXF F	手綱を伸ばした自由常歩 中間常歩	10			
8. A	尋常速歩	10			
9. E	右へ直径 20m の輪乗り	10			
10. HC 間	右へ尋常駆歩で発進	10			
11. C	右へ直径 20m の輪乗り	10			
12. BF 間	尋常速歩	10			
13. A X	中央線に入る 停止 敬礼	10			

自由常歩で A から退場

総合観察点	得点			備考
運歩 (自由と規則性)	10		2	
前進氣勢 (インパルジョン) (動きへの意欲、前進、しなやかな歩きと柔軟な背)	10		2	
従順性 (扶助の受け入れ、自信、バランス、動きの軽さと容易さ)	10		2	
騎手の姿勢と騎座 (扶助の正確さと効果)	10		2	

最高得点 210 点

小計: \_\_\_\_\_

違反: ( - ) \_\_\_\_\_

合計得点: \_\_\_\_\_

得点率: \_\_\_\_\_

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

2017年7月改訂



2017年ニュージーランド夏季全国大会



決勝

エクイテーション レベルBI およびBS ドレスサージュ (常歩-速歩) 課目 1

競技名: EQ エクイテーション ドレスサージュ

レベル B-I

騎乗者氏名: マイク・ライアン

騎乗者番号: 999

所属: LNW.MTU

馬名: Neddy

採点区分

10 優秀	9 極めて良好	8 良好
7 かなり良好	6 満足すべき演技	5 まず可と見る
4 不十分	3 やや不良	2 不良
1 極めて不良	0 不実施	

経路違反:

1 回目の違反	1 点減点
2 回目の違反	2 点減点
3 回目の違反	4 点減点
4 回目の違反	失権

運動課目	点数	係数	合計	備考
1. A 尋常軽速歩で入場				
2. C 右手前蹄跡に入る				
3. M 尋常軽速歩				
4. B 右へ直径 20m の輪乗り、尋常軽速歩 蹄跡行進				
5. BF 間 中間常歩				
6. KXM 手綱を伸ばした自由常歩 M 中間常歩				
7. C 尋常軽速歩				
8. B 左へ直径 20m の輪乗り、尋常軽速歩 蹄跡行進				
9. A 中央線に入る X 停止-不動。 敬礼				

手綱を伸ばした自由常歩で A から退場

総合観察点	係数	合計	備考
運歩 (自由と規則性)	10		
前進氣勢 (インパルジョン) (動きへの意欲、前進、しなやかな歩きと柔軟な背、後軀のエンゲイジメント)	10		
従順性 (集中力と従順性、動きの軽さと容易さ、頭絡の受け入れ)	10x2		
騎手の馬術的感覚と技術 正確性	10x2		

最高得点 150 点

小計: \_\_\_\_\_

違反: ( - ) \_\_\_\_\_

合計得点: \_\_\_\_\_

得点率: \_\_\_\_\_

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

2017 年 7 月改訂



2017年ニュージーランド夏季全国大会



決勝

エクイテーション レベルBIおよびBS ドレッシング (常歩-速歩) 課目2

競技名: EQ エクイテーション ドレッシング

レベル B-I

騎乗者氏名: マイク・ライアン

騎乗者番号: 999

所属: LNW.MTU

馬名: Neddy

採点区分

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 10 優秀   | 9 極めて良好   | 8 良好     |
| 7 かなり良好 | 6 満足すべき演技 | 5 まず可と見る |
| 4 不十分   | 3 やや不良    | 2 不良     |
| 1 極めて不良 | 0 不実施     |          |

経路違反:

- |         |       |
|---------|-------|
| 1 回目の違反 | 1 点減点 |
| 2 回目の違反 | 2 点減点 |
| 3 回目の違反 | 4 点減点 |
| 4 回目の違反 | 失権    |

運動課目	点数	係数	合計	備考
1. A 中間常歩で入場 X 停止-不動-敬礼 中間常歩で発進				
2. C 左手前蹄跡に入る H 尋常速歩で A まで蹄跡行進				
3. A 左へ直径 20m の輪乗り AF 間 尋常速歩				
4. F 中間常歩 B 左へ回転 E 右手前蹄跡に入る				
5. H 尋常速歩で A まで蹄跡行進				
6. A 右へ直径 20m の輪乗り AK 間 尋常速歩				
7. K 中間常歩 E-H-M 自由常歩				
8. C 尋常速歩で A まで蹄跡行進				
9. A 中央線に入る X 停止-不動 敬礼				

手綱を伸ばした自由常歩で A から退場

運動課目に速歩がある場合、正反撞または軽速歩を用いる。

総合観察点	備考
運歩 (自由と規則性)	10
前進氣勢 (インパルジョン) (動きへの意欲、前進、しなやかな歩きと柔軟な背、後躯のエンゲイジメント)	10
従順性 (集中力と従順性、動きの軽さと容易さ、頭絡の受け入れ)	10x2
騎手の馬術的感覚と技術 正確性	10x2

最高得点 150 点

小計: \_\_\_\_\_

違反: ( \_\_\_\_\_ )

合計得点: \_\_\_\_\_

得点率: \_\_\_\_\_

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

2017年7月改訂



2017年ニュージーランド夏季全国大会



決勝

エクイテーション レベルCIおよびCS ドレッシング (常歩) 課目1

競技名: EQ エクイテーション ドレッシング

レベル C-S

騎乗者氏名: マイク・ライアン

騎乗者番号: 999

所属: LNW.MTU

馬名: Neddy

採点区分

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 10 優秀   | 9 極めて良好   | 8 良好     |
| 7 かなり良好 | 6 満足すべき演技 | 5 まず可と見る |
| 4 不十分   | 3 やや不良    | 2 不良     |
| 1 極めて不良 | 0 不実施     |          |

経路違反:

- |         |       |
|---------|-------|
| 1 回目の違反 | 1 点減点 |
| 2 回目の違反 | 2 点減点 |
| 3 回目の違反 | 4 点減点 |
| 4 回目の違反 | 失権    |

運動課目		得点	審判採点	備考
1. A X	中間常歩で入場 停止-不動-敬礼	10		
2. C	左手前蹄跡に入る	10		
3. E E	左へ直径 20m の輪乗り 蹄跡行進	10		
4. FXH	中間常歩で斜め手前変換	10		
5. H-C-M	中間常歩	10		
6. MXF F	手綱を伸ばした自由常歩 (山形乗り) 中間常歩	10		
7. A-K-E E	中間常歩 右へ直径 20m の輪乗り	10		
8. MXK	斜め手前変換	10		
9. A X	中央線に入る 停止-不動 敬礼	10		

自由常歩で A から退場

総合観察点	得点	審判採点	備考
騎手の姿勢と誘導。	10	x2	
リラックスと正確なコンタクト	10	x2	
規則性と自由	10	x2	
全般的な印象	10	x2	

最高得点 170 点

小計: \_\_\_\_\_

違反: ( \_\_\_\_\_ )

合計得点: \_\_\_\_\_

得点率: \_\_\_\_\_

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

2017年7月改訂





2017年ニュージーランド夏季全国大会



決勝

エクイテーション レベルCIおよびCS ドレッシング (常歩) 課目2

競技名: EQ エクイテーション ドレッシング

レベル C-S

騎乗者氏名: マイク・ライアン

騎乗者番号: 999

所属: LNW.MTU

馬名: Neddy

採点区分

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 10 優秀   | 9 極めて良好   | 8 良好     |
| 7 かなり良好 | 6 満足すべき演技 | 5 まず可と見る |
| 4 不十分   | 3 やや不良    | 2 不良     |
| 1 極めて不良 | 0 不実施     |          |

- 経路違反:
- |         |       |
|---------|-------|
| 1 回目の違反 | 1 点減点 |
| 2 回目の違反 | 2 点減点 |
| 3 回目の違反 | 4 点減点 |
| 4 回目の違反 | 失権    |

運動課目		点数	備考
1. A X	中間常歩で入場 停止 中間常歩に移行しCまで行進		
2. C MXK K	中間常歩で右へ回転 常歩-自由常歩に移行 中間常歩に移行		
3. A	自由常歩 Cまで長蹄跡を行進		
4. C	左へ直径20mの輪乗り		
5. H-X-F	自由常歩で斜め手前変換		
6. A	右へ直径20mの輪乗り		
7. A-K-E E	中間常歩 右へ回転		
8. B	右へ回転しAまで蹄跡行進		
9. A X	中央線に入る 中間常歩から停止。 敬礼		

手綱を伸ばした自由常歩でAから退場

総合観察点	係数	備考
歩様 (自由と規則性)	x2	
前進氣勢 (インバルジョン) (非常に安定した速度で自由に前進する意欲)	x2	
従順性 (従順性、自信、リラックス、脇腹への刺激の受入れ、軽い安定したコンタクトで馬への騎乗があるべき)	1	
騎手 (正確な姿勢、馬とのバランスと調和、扶助の有効性と使用)	x4	

その他特記事項:

最高得点 180 点

小計: \_\_\_\_\_  
違反: ( - ) \_\_\_\_\_  
合計得点: \_\_\_\_\_  
得点率: \_\_\_\_\_

審判氏名: \_\_\_\_\_  
審判の署名: \_\_\_\_\_

2017年7月改訂



11. プリカブレリ

種目	CS	CI	BS	BI	A
プリカブレリ	不可	不可	不可	不可	可

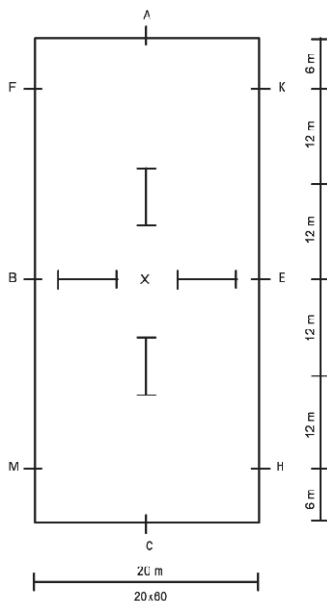
11.1 一般事項（ドレッサージュ競技のセクションを参照すること）

11.2 施設と設営

11.2.1 アリーナはドレッサージュ競技と同様に設置し大きさは 20m×60mとする。

11.2.2 障害物：

- 11.2.2.1 第 1 障害、第 2 障害は中央線 AXC 上に設置し、X 点から各障害の中央までの距離をちょうど 11m（36 フィート）とする。
- 11.2.2.2 第 1 障害、第 2 障害の高さは 45cm（18 インチ）とする。
- 11.2.2.3 第 3 障害、第 4 障害は BXE 上、アリーナ柵から 2.4m（8 フィート）離れた位置に設置する。
- 11.2.2.4 第 3 障害の高さは 60cm（24 インチ）とする。
- 11.2.2.5 第 4 障害は高さ 60cm（24 インチ）のオクサー障害とし、幅は 60cm（24 インチ）以下とする。
- 11.2.2.6 すべての障害物の横木は障害物の支柱に固定した掛け金（カップ）にのせなければならない。



11.2.2.7 障害物は白または中間色で塗装する。花や低木等で趣味よく装ってもよい。

11.2.2.8 障害の支柱間の距離は最短 3m（10 フィート）とする。障害の支柱間の距離は最長 3.6m（12 フィート）とする。

11.3 審査



11.3.1 ドレッシング競技課目と同様、本運動課目においては各運動に0から10点までの得点が付与される。

11.3.2 障害飛越に対する減点：

- |               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 1) 障害物の落下     | 2点減点                        |
| 2) 1回目の拒止（逃避） | 3点減点                        |
| 3) 2回目の拒止     | 3点減点                        |
| 4) 3回目の拒止     | 失権、ただしアスリートは最後まで演技を継続してもよい。 |

11.3.3 経路違反：

- |           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| 1) 1回目    | 1点減点                        |
| 2) 2回目    | 2点減点                        |
| 3) 3回目    | 4点減点                        |
| 4) 4回目以降  | 失権、ただしアスリートは最後まで演技を継続してもよい。 |
| 5) 声扶助の使用 | 2点減点                        |

11.3.4 審査用紙ではドレッシング競技と同様、各運動に対する採点が集計され、その後合計得点から減点される。

11.4 プリカプレリ競技課目

11.4.1 アスリートに対し運動課目を読み上げてもよい。運動課目の読み上げについては、ドレッシング競技セクションのルールを参照のこと。

11.4.2 他に記載がない限り、常歩は尋常常歩、速歩は軽速歩で行う。



2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス

決勝

レベル A プリカブレリ競技課目

競技名：EQ エクイテーション プリティッシュ式馬術 レベル：A ゼッケン番号：

ディビジョン：

騎乗者氏名： \_\_\_\_\_

馬名： \_\_\_\_\_

所属： \_\_\_\_\_

アリーナ：小 (20m×40m)

最高得点：200点

	運動課目	点数	備考
1.	A A K E H C 入場後すぐに停止、敬礼 左手前蹄跡に入り、Cまで尋常常歩		
2.	CM 間 A Aまで尋常速歩 中央線に入り、第1障害を右手に、第2障害を左手にしながら2つの曲線を進む C 左へ回転		
3.	E B M EBを直径とする左手前半巻き乗りで第1障害を飛越 Cまで尋常速歩		
4.	C A 中央線に入り、第1障害を左手に、第2障害を右手にしながら2つの曲線を進む 右へ回転		
5.	E EBを直径とする右手前半巻き乗りで第2障害を飛越		
6.	BF A K E H Aまで尋常速歩 正反撞で尋常速歩		
7.	HC 間 M B F K E H C 右尋常駆歩で発進 Cまで蹄跡行進		
8.	C 通過後 右に回転し第3障害を飛越後、第1障害を右手にしながらA付近の蹄跡に戻る		
9.	Hの手前 C M X X X K 尋常速歩 常歩 尋常常歩で斜め手前変換 停止し6秒間の不動 尋常常歩		
10.	A 正反撞で尋常速歩		
11.	MC 間 H E K A F B M C 左へ尋常駆歩で発進 Cまで蹄跡行進		
12.	C 通過後 左に回転し第4障害を飛越後、第1障害を左手にしながらA付近の蹄跡に戻る		
13.	Mの手前 C E X 尋常速歩 常歩 EXを直径とする左手前半巻き乗り 審判の方向を向き停止、敬礼後、手綱を伸ばした自由常歩でAから退場		

常歩でAから退場一運動課目が速歩の実施を求めている場合、正反撞速歩、軽速歩またはその両方の組合せのいずれで行ってもよい。

総合観察点	点数	係数	合計	備考
騎手のバランスと姿勢		2		
馬術的な感覚と技術、扶助の有効性		2		
騎手の自信、馬のアクティビティ（活発さ）の維持		2		
馬を誘導する騎手の能力と正確さ		1		

その他特記事項：

小計： \_\_\_\_\_

違反：（-） \_\_\_\_\_

合計得点： \_\_\_\_\_

審判氏名： \_\_\_\_\_

審判の署名： \_\_\_\_\_



2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス

決勝

レベルA プリカプレリ競技課目

競技名：EQ エクイテーション プリティッシュ式馬術 レベル：C-I ゼッケン番号：

ディビジョン：

騎乗者氏名：\_\_\_\_\_

馬名：\_\_\_\_\_

所属：\_\_\_\_\_

アリーナ：小 (20m×40m)

最高得点：200点

運動課目	点数	備考
1. A A K E H C		
2. CM 間 A C		
3. E B M		
4. C A		
5. E		
6. BF A K E H		
7. HC 間 M B F K E H C		
8. C 通過後		
9. H の手前 C M X X X K		
10. A		
11. MC 間 H E K A F B M C		
12. C 通過後		
13. M の手前 C E X		

常歩で A から退場—運動課目が速歩の実施を求めている場合、正反撞速歩、軽速歩またはその両方の組合せのいずれで行ってもよい。

総合観察点	点数	係数	合計	備考
騎手のバランスと姿勢		2		
馬術的な感覚と技術、扶助の有効性		2		
騎手の自信、馬のアクティビティ（活発さ）の維持		2		
馬を誘導する騎手の能力と正確さ		1		

その他特記事項：

小計：\_\_\_\_\_

違反：（-）\_\_\_\_\_

合計得点：\_\_\_\_\_

審判氏名：\_\_\_\_\_

審判の署名：\_\_\_\_\_



**12. エクイテーション・ジャンプ（障害飛越馬術）**

種目	CS	CI	BS	BI	A
エクイテーション・ジャンプ（障害飛越馬術）	不可	可	不可	可	可

12.1 定義

一般事項：エクイテーション・ジャンプ（障害飛越馬術）とは、障害物が設置された簡単なコースを飛越し、身体を使った正しい乗馬技術を実践することである。1 ラウンドの走行全体が審査され、タイムは考慮されない。騎手は障害物への正確なアプローチと飛越中の姿勢を審査される。

最も高い得点を獲得した騎手が1位となる。施設と設営：30mx60m のアリーナ。

12.2 競技のレベル

12.2.1 常歩（レベル CI）：アスリートは4～8本の地上横木が置かれたコースを常歩で進む。障害物への正しいアプローチ、コース取りの正確さ、飛越姿勢が審査される。ジャンプの高さは15cmとする。

12.2.2 常歩一速歩（レベル BI）：アスリートは6～8本の地上横木が置かれたコースを常歩／速歩で進む。障害物への正しいアプローチ、コース取りの正確さ、飛越姿勢が審査される。レベル BIの騎手は速歩で実施する。レベル BIの障害の高さは30cmまでとする。なおこれらは地上横木ではなく障害とする。

12.2.3 常歩一速歩一駈歩（レベル A）：アスリートは5～8個の障害を設置したコースを駈歩で走行する。障害の高さは最高60cmとし、コース取りの正確さ、飛越、騎手の姿勢、障害物への正しいアプローチと飛越姿勢が審査される。障害の数は6～8個とする。

12.3 競技ルール

12.3.1 飛越コースでは計時しない。

12.3.2 鞭や拍車は使用できない。ただしそのクラスが始まる前に申請し、大会運営側から特別に許可を得た場合を除く。

12.3.3 レベル A では、審判が笛を吹いた際、アスリートはコーススタート前に特別に輪乗りをすることが許される。

12.3.4 レベル A では、アスリートは最後の障害を飛越後、アリーナを退場する前に特別に輪乗りをすることが許される。

12.4 施設と設営

12.4.1 コースは柵で囲まれた馬場内に設置する。

12.4.2 すべての障害物の横木は障害物の支柱に固定した掛け金（カップ）にのせなければならない。

12.4.3 障害物は白または中間色で塗装する。花や低木等で趣味よく装ってもよい。

12.4.4 障害の支柱間の距離は最短3m（10フィート）とする。障害の支柱間の距離は最長3.6m（12フィート）とする。

12.4.5 コースには、方向変換のために隅角及び斜線上にポールを設置する。

12.4.6 地上横木の中央部分は別の色に塗る。

12.4.7 コースは競技会開催の十分前に掲示されるべきであり、可能であればアスリートがコースを下見できることが望ましい。

12.4.8 各障害飛越で10点を最高得点とする10点満点での採点が行われ、最高点を獲得した騎手が1位となる（審査用紙を参照）。

12.5 審査—各障害／地上横木通過は10点満点で採点される。騎手の姿勢や扶助の有効性に重点が置かれ、馬の質は考慮しない。

12.5.1 障害飛越に関する減点



障害物の落下（レベル A）	2 点減点
地上横木をける（レベル B、C）	2 点減点
1 回目の拒止（逃避）	3 点減点
2 回目の拒止	3 点減点
3 回目の拒止	失権（アスリートはコースを完走してもよい）
地上横木の中央部分を通らなかった（レベル B、C）	10 点までの減点

12.6 姿勢の失敗（例は審査用紙を参照）

12.6.1 障害物上でバランス／姿勢を崩す。2 点の減点。すべては審判によって判断され、審査用紙で採点される。

12.6.2 指定された歩様を維持できない。

12.6.3 扶助を有効に使用していない。



2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス



決勝

エクイテーション・ジャンプ（障害飛越馬術）

競技名：EQ エクイテーション プリティッシュ式エク レベル：A

ゼッケン番号：55

エクイテーション・ジャンプ

ディビジョン：21

馬名：66-Rappi

騎乗者氏名：ジョン・ディーヴィー

所属：SO Ireland

減点：

1 回目の拒止 - 3 点減点

障害物の落下 - 2 点減点

2 回目の拒止 - 3 点減点

各経路違反 - 各 2 点減点

3 回目の拒止 - 失権

障害飛越	拒止	障害物の落下	経路違反	得点	備考
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					
審査					
各障害飛越は 10 点満点で採点される。 アプローチ、扶助、拳の安定、障害物の中央に対する真直性に関して最大 5 点。 飛越中の姿勢とバランスに関して最大 5 点。 以上の合計で各障害飛越に対する合計は 10 点満点となる。 障害物の落下や拒止、経路違反に対する減点は、障害飛越の得点小計から引かれる。					得点小計
					減点
					合計得点

審判の署名：\_\_\_\_\_

2016 年 9 月改訂





13. プリティッシュ式エクイテーション

種目	CS	CI	BS	BI	A
プリティッシュ式エクイテーション	可	可	可	可	可

13.1 一般事項

- 13.1.1 プリティッシュ式エクイテーションは、騎手と馬のマッチングおよび練習の終了後、事前演技として必須となる。
- 13.1.2 プリティッシュ式馬術は、エクイテーションの選択できる一種目でもある。
- 13.1.3 アリーナに配置された審判は、騎手に指示を出す。
- 13.1.4 世界大会においては、コーチまたはコーチに指名された人が騎手の母国語で指示を与える。指示は審判の言葉通りに翻訳され、いかなる追加のコメントもつけてはならない。指示を出す人の隣に通訳を立たせてもよい。
- 13.1.5 規定された課目内容はない。審判の裁量で、審査用紙に指示された運動内容を採点するために必要と考える運動を騎手に求める。

13.2 審査手順と要件

- 13.2.1 騎手は、自分の参加するディビジョンに適切な歩様を演技する。
- 13.2.2 騎手は、審判と大会主催者が決定したしかるべき運動課目の実施を求められることがある。
- 13.2.3 一部またはすべての騎手は、クラス別の要件に含まれているしかるべき運動課目を実施するよう求められることがある。運動課目は部班演技または個別演技のいずれかで行われる。
- 13.2.4 すべての運動課目はフラットワークでなければならない。
- 13.2.5 審判は少なくとも3つの運動課目を演技するよう要求しなければならない。
- 13.2.6 騎手は騎座、扶助および馬をコントロールする能力に関して審査される。審査の際には、馬の演技による結果と、騎手が用いた手法を同等に扱わなければならない。
- 13.2.7 競技者は、ゲートにて審判に呼ばれ馬場へ入場する。
- 13.2.8 騎手は、馬場内を両手前で騎乗することを求められる。審判の要求に応じ個別または部班で行う。軽速歩では騎手は正しい斜体歩が求められる。部班による駈歩は安全上の理由から禁止とする。

13.3 プリティッシュ式エクイテーションの運動課目一審判は以下の運動課目から選ぶことができる：

- 13.3.1 騎手は、自分の参加するディビジョンに適切な歩様を演技する。常歩、速歩もしくは駈歩を一体的に実施する。
- 13.3.2 移行：
  - 場合によっては、「経路違反」の際にベルを鳴らしてしまうとアスリートの演技の流れを不必要に崩してしまう恐れがある。このような場合、ベルを鳴らすかどうかは審判が判断する。
  - 13.3.2.1 レベル C—自由常歩／尋常常歩
  - 13.3.2.2 レベル B—常歩／速歩／常歩
  - 13.3.2.3 レベル A—速歩／駈歩／速歩または常歩／駈歩／速歩
- 13.3.3 常歩、速歩あるいは駈歩からの停止（4～6秒）
- 13.3.4 常歩または速歩の巻き乗り（10m）
- 13.3.5 速歩または駈歩の輪乗り（20m）
- 13.3.6 常歩または速歩の8の字（6～15mの円）



13.3.7 常歩または速歩の対角線上行進

13.3.8 常歩または速歩で半円（6m）を描く半巻き乗り／リバースの方向変換

13.3.9 軽速歩の蛇乗りでの手前変換（レベル A の騎手用）

13.3.10 駈歩での手前変換をシンプルチェンジまたは停止を挟んで実施

13.3.11 駈歩での 8 の字（15～20m の円）。シンプルチェンジによる手前変換で円の移動に合わせた正しい手前での運動。



2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス



決勝

エクイテーション審査用紙 レベル A 常歩/速歩/駈歩

競技名: EQ エクイテーション ブリティッシュ式エクイテーション

ディビジョン: 21

日時: 2015年7月29日 午後2時45分

レベル: A

アスリート情報	常歩	速歩	駈歩	停止	移行	円	扶助の使用	騎座とバランス	馬をコントロールし馬を見せる能力	合計	順位
55番 ジョン・ディーヴィー SO Ireland 馬: 66番 ラッピー											
26番 モハメド・E・エルガルビ SO Egypt 馬: 26番 マンボ											
75番 エンジェル・イエガー SO Netherlands 馬: 61番 タイラー											
72番 ヒシャム・ラムノーニ SO Morocco 馬: 77番 バスター											

各運動は10点満点で採点される

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_



2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス



決勝

エクイテーション審査用紙 レベルBS およびBI 速歩リード付 速歩リード無し

競技名: EQ エクイテーション ブリティッシュ式エクイテーション

ディビジョン: 17

日時: 2015年7月29日 午前11時40分

レベル: B-I

アスリート情報	常歩	速歩	駈歩	停止	移行	円	扶助の使用	騎座とバランス	馬をコントロールし馬を見せる能力	合計	順位
9番 アーメド・M・アブドゥラ SO Bahrain 馬: 13番 エル・アラミス											
11番 コマイル・A・アルモカウイ SO Bahrain 馬: 8番 ミスターピブ											
97番 ハンスーリ・プロニンマン SO Switzerland 馬: 14番 ダルトン											
56番 エリザベス・メイア SO Ireland 馬: 69番 ラプソディ											

各運動は10点満点で採点される

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

# スペシャル オリンピック ス



エクイテーション公式スポーツルール



2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス



## 決勝

エクイテーション審査用紙 レベル CS および CI 常歩リード付きおよび常歩リード無し

競技名：EQ エクイテーション ブリティッシュ式エクイテーション

ディビジョン：7

日時：2015年7月29日 午前10時40分

レベル：C-S

アスリート情報	常歩	自由常歩	停止	移行	円	扶助の使用	騎座とバランス	馬をコントロールし馬を見せる能力	合計	順位
24番 アムロ・A・アブドアルマギド SO Egypt 馬：40番 カレオ										
27番 ディーナ・A・サーレハ SO Egyp1 馬：3番 ダコタ										

各運動は10点満点で採点される

審判氏名：\_\_\_\_\_

審判の署名：\_\_\_\_\_



14. ブリティッシュ式ワーキング・トレイル

種目	CS	CI	BS	BI	A
トレイル	可	可	可	可	可

14.1 一般事項

- 14.1.1 トレイルを行う馬は障害物に取り組んだり、通り抜けたりが求められる。
- 14.1.2 コースおよび審判の準備ができるまで、馬は一切トレイルコースに入場してはならない。
- 14.1.3 騎手は、クラス開始前の審判の説明中に歩いてコースを下見することが許される。
- 14.1.4 コースデザイナーは安全を第一に考え、事故発生の可能性を最小限に留めるようすべてのコースや障害を構成するべきであり、そのことを忘れてはならない。
- 14.1.5 審判は競技前に必ずコースを歩くこと。審判は、危険あるいは走行不可能とみなした場合、コースのいかなる変更、また障害の変更もしくは撤去を命じる権限と義務を有する。
- 14.1.6 障害物間の歩様の安全性については審判の判断に従うものとする。
- 14.1.7 コース設計では、各馬にそのディビジョンに適したすべての歩様を演技するよう求める。
- 14.1.8 審判がそれぞれのディビジョンに適した歩様を審査できるよう、コースには馬が最低 10m (30 フィート) の速歩および最低 15m (50 フィート) の駈歩を行う十分なスペースを取る必要がある。
- 14.1.9 屋外コースでは、安全な活用および審判のアクセスのしやすさと良好な視認性が確保できる場合に限り、自然の障害物（木、小川、低木の茂み、丘陵、溝など）の使用が推奨される。
- 14.1.10 トレイルクラスにおいてのみ、地味な色の肢用バンテージおよびブーツを馬に着用することが許可される。
- 14.1.11 必要な障害物：
  - 14.1.11.1 ディビジョン A の騎手
    - コースには、「必須障害物」リストから 3 エレメントと、「任意の障害物」リストから少なくとも 3 エレメントを含める。
    - コースには、少なくとも 6 エレメント、最大で 10 エレメントを含める。
  - 14.1.11.2 ディビジョン CI および BI の騎手
    - コースには、必須障害物リストから 3 エレメントを含める。
    - コースには、少なくとも 5 エレメント、最大で 7 エレメントを含める。
  - 14.1.11.3 ディビジョン CS および BS の騎手
    - コースには、必須障害物リストから 2 エレメントを含める。
    - コースには、少なくとも 4 エレメント、最大で 6 エレメントを含める。

14.2 審査

- 14.2.1 各騎手は、指定されたコースを通し馬を導く能力が審査される。騎手のキュー（指示）に応えながら障害物を正しく切り抜ける馬が評価される。



- 14.2.2 馬が1つの障害に長時間を要している場合、審判は次の障害に進むよう促すことが推奨される。馬が障害へのアプローチで不必要に時間がかかった場合、減点の対象となる。
- 14.2.3 「コース違反」の定義：
- 14.2.3.1 障害に誤った方向に進入または誤った側から進入した場合。
  - 14.2.3.2 パターンに記載された以外の方法で障害に進入した場合。
  - 14.2.3.3 審判の指示なく障害を省略し、次に進んだ場合。
  - 14.2.3.4 障害物を切り抜ける順序を誤った場合。
  - 14.2.3.5 騎手が審判の指示に従った障害物への対応を行わなかった場合。
- 14.3 ブリティッシュ式トレイルのエレメンツ
- 14.3.1 不適切な障害物
- 14.3.1.1 タイヤ
  - 14.3.1.2 動物（生死を問わず）
  - 14.3.1.3 隠し障がい
  - 14.3.1.4 下馬と再騎乗を要するもの
  - 14.3.1.5 飛越用障害
  - 14.3.1.6 揺れたり、浮いたり、動いたりするような橋
  - 14.3.1.7 炎、ドライアイス、消火器など
  - 14.3.1.8 転がるような高さに持ち上げて置かれているログや横木
- 14.3.2 必須障害物
- 14.3.2.1 少なくとも4つのログまたは横木をまたぐ
- 14.3.2.1.1 横木は直線、カーブ、ジグザグいずれの置き方でもよい。
- 14.3.2.1.2 横木間の距離は馬が通る道筋で計測する：
- 常歩向けの地上横木（高さのないもの）－最短 40～50cm（15～20インチ）の間隔で設置。
  - 常歩向けの地上横木（高さのあるもの）－最短 56cm（22インチ）の間隔とし、路面から障害物上部まで最高 30cm（12インチ）まで持ち上げて設置可能。
  - 速歩向けの地上横木（高さのないもの）－最短 90～107cm（3フィート～3フィート6インチ）の間隔で設置。
  - 駈歩向けの地上横木（高さのないもの）－最短 2m（6～7フィート）の間隔で設置。
- 14.3.2.2 常歩、速歩または駈歩での障害物の舵乗り。
- 14.3.2.2.1 含めてもよい障害物：
- オレンジ色のセーフティコーン
  - 杭：高さ 2m（6フィート6インチ）程度で、プラスチックや木など安全で適切な素材から成り、馬の進路を妨害しないよう基盤に設置された物
  - バレル（たる）またはクォーターサイズのドラム缶
  - 安全なプランターなどに植えられた植物
  - 木や低木の茂みなどの自然の障害物で、アスリートに危害が及ばないような高さに整えられたもの
- 14.3.2.3 各障害物の間隔は以下の基準以上であること：
- 常歩の場合は 2m 程度（6～7フィート）
  - 速歩の場合は 3m 程度（9～10フィート）
  - 駈足の場合は 10m（33フィート）





# スペシャル オリンピック ス



エクイテーション公式スポーツルール



## 決勝

### EQ エクイテーションワーキング・トレイル審査用紙

競技名: \_\_\_\_\_

ディビジョン: \_\_\_\_\_

レベル: \_\_\_\_\_

日付: \_\_\_\_\_

アスリートの氏名および番号	馬名および馬番号	エレメンツ										常歩	速歩	駈歩	合計	順位	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						

各運動は 10 点満点で採点される

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

2016 年 10 月改訂

エクイテーション公式スポーツルール



スペシャル  
オリンピック  
ス



# スペシャル オリンピック ス



エクイテーション公式スポーツルール



## 2015年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ロサンゼルス



決勝



### EQ エクイテーションワーキング・トレイル審査用紙

競技名：EQ エクイテーションワーキング・トレイル

ディビジョン：10

日時：2015年7月13日 午前9時00分

レベル：B-I

アスリートの氏名および番号	馬名および馬番号	エレメンツ										取組み	常歩	速歩	駈歩	合計	順位	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
ジョン・パティジーク 38番 SO Gibraltar	28番 ルビー																	
フリスト・ヨルダノフ・ディミトロフ 17番 SO Bulgaria	5番 バフィ																	
ニオヴィ・ドリムーシ 51番 SO Hellas (ギリシャ)	36番 クレレンス																	
リネット・ジェーン・ダンブルトン 42番 SO Great Britain	3番 ダコタ																	
シンディ・クリスティーナ・ヘルトシーマ 74番 SO Netherlands	52番 リオ																	
アマンダ・カイサ・スワジー 121番 SO USA	93番 バーニー																	
グレン・フランシス・ウィンプルトン 39番 SO Gibraltar	31番 アルゴ																	

各運動は10点満点で採点される

取組みは5点満点で採点される

審判が騎手に次の経路を指示する必要が生じる都度、2点減点

10=優秀、9=極めて良好、8=良好、7=かなり良好、6=満足すべき演技、5=まず

可とみる、4=不十分、3=やや不良、2=不良、1=極めて不良、0=不実施

審判氏名: \_\_\_\_\_

エクイテーション公式スポーツルール



スペシャル  
オリンピック  
ス



審判の署名: \_\_\_\_\_



**15. ウェスタン式種目**

15.1 ストック・シートエクイテーション

15.1.1 一般事項

- 15.1.1.1 一部またはすべての騎手は、クラス別の要件に含まれているしかるべき運動課目を実施するよう求められることがある。運動課目は部班演技または個別演技のいずれかで行われる。
- 15.1.1.2 エレメントの組み合わせから成る個人別のパターンが要求される。
- 15.1.1.3 審判は少なくとも2つの運動課目を要求することが推奨される。
- 15.1.1.4 騎手は馬を変えずに運動課目を行ってもよい。
- 15.1.1.5 指示は公表しなければならない。パターン指示を文書化し、コーチハンドブックに記載するか、競技開始の遅くとも1時間前までに掲示することが望ましい。

15.1.2 審査手順と要件

- 15.1.2.1 競技者は、常歩または速歩（ジョグ）で馬場に入場し、ディビジョンごとの指定に従った、しっかりとした4拍子の常歩、2拍子のジョグ、3拍子の駆足（ロープ）の蹄跡が審査される。
- 15.1.2.2 競技者は、その後一列に並び、命令に合わせ馬を後退させる。
- 15.1.2.3 ロープでは正しい手前であることが望ましい。

15.1.3 ストック・シートエクイテーションの運動課目—審判は以下の運動課目から選択する：

- 15.1.3.1 常歩またはジョグで大きなサークル
- 15.1.3.2 停止
- 15.1.3.3 停止、常歩、またはジョグから半巻き乗り／リバースの方向変換
- 15.1.3.4 ロープからの停止
- 15.1.3.5 ロールバック、後肢旋回、またはスピン
- 15.1.3.6 ジョグで8の字
- 15.1.3.7 正しい手前のロープでの8の字を、停止を挟んでの手前変換、シンプルチェンジ、またはフライングチェンジのいずれかで実施
- 15.1.3.8 中央線で3回以上の手前変換

15.1.4 ストック・シートエクイテーションガイドライン

ガイドライン				ルール（必須）
	良好	軽微な失敗	重大な失敗	失権
騎座	バランスの中心を保つ 完全に鞍に接している 真っすぐな背筋	中心をはずして座っている 後傾 丸まった背中 バランスの中心を失う	余分な体の動き 鞍からの飛び出し	審判の裁量による 馬の転倒、または騎手の落馬
拳	穏やかで軽い握り 馬の頭の位置を一定に保つ	不安定さ 不正確な歩様を生むような制限	開いた馬の口 重い握り 拳が絶えず馬の体に当たる	審判の裁量による 馬の転倒、または騎手の落馬



<b>脚</b>	安定した脚の位置 鐙に適度に体重をかける コントロールされた動き親 指の付け根（母指球）に均 等に体重をかけるつま先よ り踵を低くする	均等でない鐙 脚の揺れ 鐙への体重かけが不十分	他の騎手の妨害 過度な拍車 脚と鞍、足と鐙のコンタク トの喪失 柵または他の騎手との接触	審判の裁量による 馬の転倒、または騎手の落 馬
<b>コントロール</b>	一定の歩様で馬の姿勢を保 つ 悪条件のなか馬をコントロ ールする能力	常歩がジョグに意図せず移 行 ジョグがロープに意図せず 移行 列に並ばない	ジョグが常歩に意図せず移 行 ロープがジョグに意図せず 移行 馬が後にのけぞる 手前間違	審判の裁量による 馬の転倒、または騎手の落 馬
<b>外見全体</b>	身体にぴったり合った適切 な服装 よく身繕いされた馬 清潔な用具	騎手の体格に合わない鞍 不適当な服装 汚れたブーツ	清潔でない用具 身繕いされていない馬 手入れされていない馬	審判の裁量による 馬の転倒、または騎手の落 馬
<b>全般</b>	馬や審判に対する良い態度 騎手の一貫した姿勢	馬に合っていない馬具 隅角および蹄鉄使用の失敗 馬と騎手の相性	過度な口頭による命令 過度な回転 移行時の大きな遅れ	審判の裁量による 馬の転倒、または騎手の落 馬

15.2 ウェスタン騎乗

15.2.1 一般事項

- 15.2.1.1 この競技はスタントでも競争でもなく、許容される範囲内のスピードで行われるべきである。
- 15.2.1.2 馬がいかに落ち着いて、従順で、よく調教され、自由かつ楽に運動しているかを演技の質や持ち味から審査するものである。
- 15.2.1.3 審査のポイントは歩様の質と手前変換の質（停止を挟んでの手前変換、シンプルチェンジ、またはフライングチェンジ）、および馬を誘導するアスリートの能力に置かれる。
- 15.2.1.4 スペシャルオリンピックスの運動課目はすべて読み上げが認められている。（ドレサージュ競技の運動課目読み上げに関するルールを参照のこと）。
- 15.2.1.5 審判がレベルにあった演技パターンを選択する。審判は、パターンの正しい設定に責任を負う。

15.2.2 施設と設営

- 15.2.2.1 アリーナ内のマーカーは、9.14m（30 フィート）以上、15.24m（50 フィート）以下の間隔で5つ設置する。（下記ウェスタン騎乗図を参照）
  - 15.2.2.1.1 すべてのパターンでマーカーは反対側の対となるマーカーと合わせた位置に置く。
  - 15.2.2.1.2 マーカーはラチから4.7m（15 フィート）以上離して設置する。
  - 15.2.2.1.3 パターンの幅は、アリーナの大きさに応じて15.24m（50 フィート）以上、24.38m（80 フィート）以下の範囲内とする。
- 15.2.2.2 2.44m（8 フィート）以上の長さのログまたは横木を使用する。

15.2.3 審査：騎手は以下の項目について審査される：

- 15.2.3.1 指定のコース内で馬を正しく誘導する能力



15.2.3.2 歩様を一定に保ちながら、歩様変換および手前変換において滑らかに移行する能力

15.2.3.3 全般的な態度

15.2.3.4 左右の手綱を片手で持つ

15.2.3.5 馬が動いている間、騎手の手が馬や鞍に接触しないこと

歩様の滑らかさ、均等な歩幅の弾発性（ケイダンス）、およびマーカーク間の中央ポイントで手前変換を正確かつ容易に行う（前肢と後肢）馬の能力に重点が置かれ、評価される。ログ通過は、歩様を乱したり、歩幅を大幅に変えることなく行わなければならない。

15.2.4 採点：騎手は0点から100点の範囲で採点され、平均的な演技を70点とする。

15.2.4.1 各運動について以下の基準に従いプラス1.5からマイナス1.5の範囲で加点または減点する。

減点：

1.5	極めて不良
1.0	かなり不良
0.5	不良
0.0	平均的

加点：

0.5	良好
1.0	非常に良好
1.5	優秀

15.2.4.1.1 運動の得点は違反点とは別に決定される。以下の特徴は失敗とみなされ、運動の採点時に考慮すべき点である：

- 馬が必要以上に口を開けている
- 馬が合図を先読みして動こうとしたり早めに手前変換しようとしている様子
- 馬のつまずき

15.2.4.2 競技者は以下が起こるたびに、減点される：

15.2.4.2.1 5点減点

- 手前変換の失敗
- 後肢の蹴り出し
- 明確な不従順

15.2.4.2.2 3点減点

- パターンで指定された歩様（ジョグまたはロープ）を実施していない、またはパターンで指定されたエリアから3m（10フィート）以内で停止していない
- ロープ中の歩様の乱れ
- コーラー／読み上げ担当者が運動のコール／読み上げを繰り返す
- 1間歩で手前変換を完了させることに失敗したが、次の指定エリアの前に手前変換を完了
- パターン内で指定外の手前変換
- パターン1、ディビジョンA：ジョグでログ通過後、30フィート（約9m）以内のロープ移行に失敗
- パターン1、ディビジョンB：中央線通過後、20フィート（約6m）以内のジョグ移行に失敗
- 常歩またはジョグで2間歩以上の歩様の乱れ

15.2.4.2.3 1点減点

- 常歩またはジョグで最大2間歩の歩様の乱れ



- b) ログにぶつかるか転がす
- c) 手前変換が 1 間歩遅れる
- d) ロープでログ通過の際、前肢と両後肢の間にログをはさむ

15.2.4.2.4 0.5 点減点

- a) 馬の肢とログの軽微な接触
- b) 手前変換中に後肢がスキップまたは揃う
- c) 手前変換が 1/2～1 間歩未満遅れる

15.2.4.2.5 競技者は失格（0 点）：

- a) 違法な馬具や用具の使用、意図的な虐待
- b) 「コース違反」
- c) マーカーの引き倒し
- d) ログの通過もれ
- e) 強固な拒否－停止後、2 間歩後退または前肢を 4 歩足踏み
- f) 強固な不従順－後肢で立ちあがるなど
- g) 馬の転倒、または騎手の落馬
- h) 安全上必要な場合を除き、許可されていない補助

15.2.4.2.6 競技者は以下に対し加点される：

- a) 前肢、後肢同時の手前変換
- b) 指定された場所での手前変換
- c) 正確で滑らかなパターン
- d) 全体を通して同じ速さ
- e) 手綱と脚による扶助を用いた誘導やコントロールが容易に見える馬
- f) マナーと気質

15.2.5 ディビジョン A－課目 1

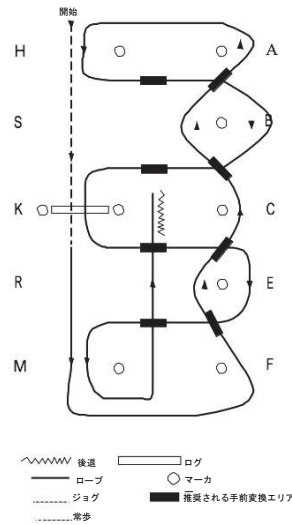
常歩で入場、開始

- H ジョグ。
- K ジョグでログ通過後、直ちにロープ。
- M 左へ回転しアリーナを横断。
- F 杭の間をスラローム、杭を通過するたびに手前変換。
- A ロープでアリーナを横断。
- H Hで回転しアリーナを横断、中央線で手前変換。
- B Bで回転しアリーナを横断、中央線で手前変換。
- K ロープでログ通過しアリーナを横断、中央線で手前変換。
- E Eで回転しアリーナを横断、中央線で手前変換。



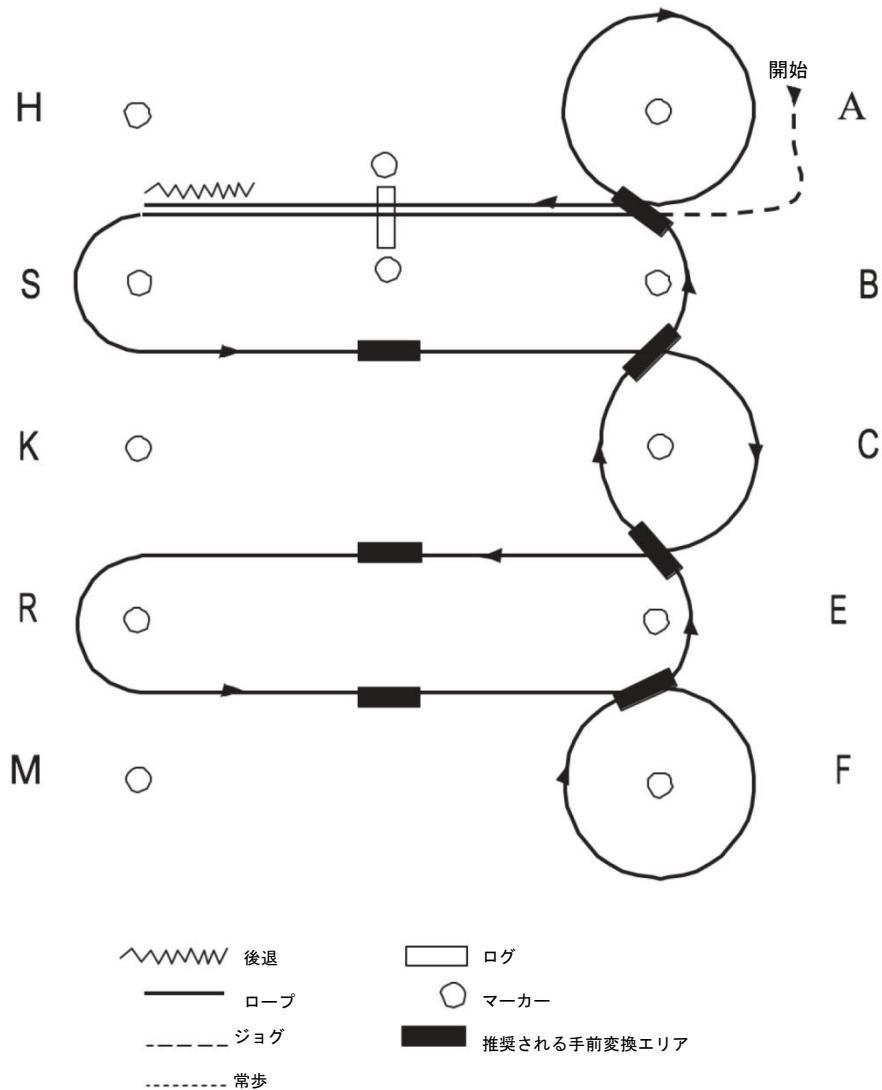


M Mで回転した後曲がり、中央線を行進、CK間の中央線で停止、後退。審判に向かい、退場の指示を受ける。



#### 15.2.6 ディビジョンA-課目2

- A 常歩。Aで右に曲がりジョグでアリーナを横断、ログ通過後、ロープ。
- S Sで左回転しアリーナを横断、中央線で手前変換。
- C Cで右回転しアリーナを横断、中央線で手前変換。
- R Rで左回転しアリーナを横断、中央線で手前変換。
- F Fで右手前サークル後、Aまでスラローム。マーカ通過のたびに手前変換。
- A Aで右手前サークル後、アリーナを横断、ロープでログ通過後、HS間で停止、後退。審判に向かい、退場の指示を受ける。



### 15.2.7 ディビジョンB-課目 1

常歩で入場、開始

H 常歩。

K 常歩でログ通過、左へ回転しアリーナを横断。中央線でジョグに移行

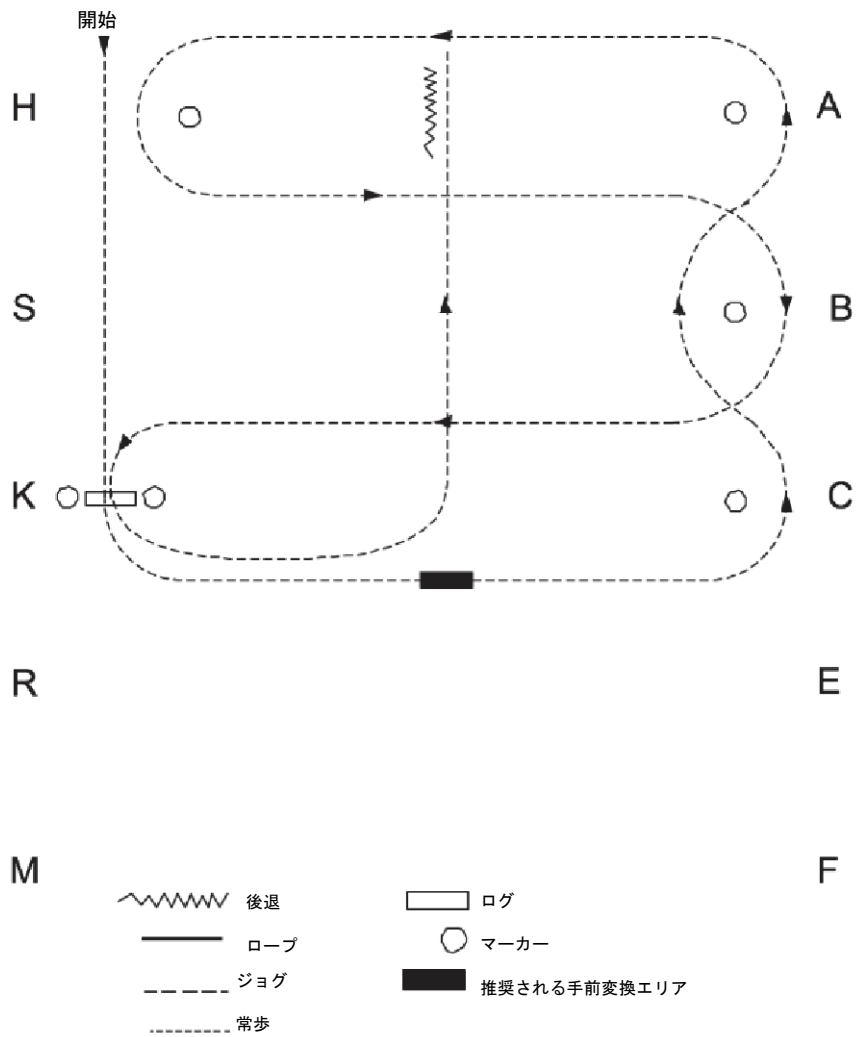
C 回転後、ジョグでAまでスラローム。

A ジョグでアリーナを横断。

H Hで回転しジョグでアリーナを横断。

B Bで回転しジョグでアリーナを横断。

K Kで回転しログ通過。中央線で左回転し中央線を行進。AH間で停止、後退。審判に向かい、退場の指示を受ける。





16. ウェスタン式ワーキング・トレイル

種目	CS	CI	BS	BI	A
トレイル	可	可	可	可	可

16.1 一般事項

- 16.1.1 コースデザイナーは安全を第一に考え、事故が起こらないようすべてのコースや障害を構成するべきであり、そのことを忘れてはならない。
- 16.1.2 審判は競技前に必ずコースを歩くこと。審判は、危険あるいは走行不可能とみなした場合、コースのいかなる変更、また障害の変更もしくは撤去を命じる権限と義務を有する。
- 16.1.3 障害物間の歩様の安全性については審判の判断に従うものとする。
- 16.1.4 大会運営側は、90秒以内に安全に完走できるよう、障害を配置することが推奨される。
- 16.1.5 コース設計では、各馬にそのディビジョンに適したすべての歩様を演技するよう求める。
- 16.1.6 審判がそれぞれのディビジョンに適した歩様を審査できるよう、コースには馬が最低 10m（30 フィート）の速歩および最低 15m（50 フィート）の駈歩を行う十分なスペースを取る必要がある。
- 16.1.7 屋外コースでは、安全な活用および審判のアクセスのしやすさと良好な視認性が確保できる場合に限り、自然の障害物（木、小川、低木の茂み、丘陵、溝など）の使用が推奨される。
- 16.1.8 トレイルクラスにおいてのみ、地味な色の肢用バンテージおよびプロテクターを馬に着用することが許可される。
- 16.1.9 必要な障害物：
  - 16.1.9.1 ディビジョン A の騎手
    - 16.1.9.1.1 コースには、「必須障害物」リストから 3 エレメントと、「任意の障害物」リストから少なくとも 3 エレメントを含める。
    - 16.1.9.1.2 コースには、少なくとも 6 エレメント、最大で 10 エレメントを含める。
  - 16.1.9.2 ディビジョン CI および BI の騎手
    - 16.1.9.2.1 コースには、必須障害物リストから 3 エレメントを含める。
    - 16.1.9.2.2 コースには、少なくとも 5 エレメント、最大で 7 エレメントを含める。
  - 16.1.9.3 ディビジョン CS および BS の騎手
    - 16.1.9.3.1 コースには、「必須障害物」リストから 2 エレメントを含める。b) コースには、最少で 4 エレメント、最大で 6 エレメントを含める。

16.2 審査

- 16.2.1 各騎手は、指定されたコースを通し馬を導く能力が審査される。騎手のキュー（指示）に応えながら障害物を正しく切り抜ける馬が評価される。馬が 1 つの障害に長時間を要している場合、審判は次の障害に進むよう促すことが推奨される。
- 16.2.2 馬が障害へのアプローチで不必要に時間がかかった場合、減点の対象となる。
- 16.2.3 「コース違反」の定義：



- 16.2.3.1 障害に誤った方向に進入または誤った側から進入した場合。
- 16.2.3.2 パターンに記載された方法以外で障害に進入した場合。
- 16.2.3.3 審判の指示なく障害を省略し、次に進んだ場合。
- 16.2.3.4 障害物を切り抜ける順序を誤った場合。
- 16.2.3.5 騎手が審判の指示に従った障害物への対応を行わなかった場合。

16.2.4 「経路違反」に対しては、騎手は該当する障害についての点数がつかないものとするが、必ずしもそのクラスの失権にはならない。「経路違反」をした騎手は、所定のコースを順守した騎手より下位とすべきである。

ウェスタン式トレイル審査ガイドライン

トレイル	ガイドライン			ルール (必須)
	良好	軽微な失敗	重大な失敗	失権
<b>常歩</b> <b>速歩 (ジョグ)</b> <b>駈歩 (ロープ)</b> (コース上で)	一貫した歩様  明確な移行	不安定な歩様  ロープにおける手前の間違い	乱れた歩様  指定された歩様の不実施	審判の裁量による  馬の転倒、または騎手の落馬
<b>障害物のコントロール</b> ゲートの後退通過、側面通過 前肢と後駆でのターン 舵乗り	滑らか  よい姿勢  反応が良い	軽微な接触  傾いた側面通過外れた位置遅い反応 後ろにのけぞる	持ち上げられた障害物を倒す  エレメントの制限から外れる  歩様を失う  せわしなさや極度の緊張  拒止	審判の裁量による  馬の転倒、または騎手の落馬
<b>障害物における敏捷性</b> 常歩通過 ジョグまたはロープ キャバレッティ 橋	油断しない  注意深い 意欲的 下がった項	軽微な接触  極度に躊躇  中央線に留まることができない	障害物を倒す  拒止  歩様を保つことができない  橋から外れる	審判の裁量による  馬の転倒、または騎手の落馬
<b>障害物における冷静さ</b> プラスチック 低木の茂み 草花 物を運ぶ	しっかりとした足取り  注意深い 意欲的 下がった項 物を運ぶ時の落ち着き	障害物をまたぐか通り抜ける時の緊張  物を運ぶ時の怯え	障害物を飛び越えるか突進する  拒止	審判の裁量による  馬の転倒、または騎手の落馬

違反無し、または軽微な失敗で終えたすべての馬は、重大な失敗をした馬より先に考慮される。

16.3 ウェスタン式トレイルのエレメント

- 16.3.1 不適切な障害物
  - 16.3.1.1 タイヤ
  - 16.3.1.2 動物 (生死を問わず)
  - 16.3.1.3 隠し障がい
  - 16.3.1.4 下馬と再騎乗を要するもの
  - 16.3.1.5 飛越用障害
  - 16.3.1.6 揺れたり、浮いたり、動いたりするような橋



- 16.3.1.7 炎、ドライアイス、消火器など
- 16.3.1.8 転がるような高さに持ち上げて置かれているログや横木
- 16.3.2 必須障害物
- 16.3.2.1 ゲート通過。ゲートは約 1.53m (5 フィート) の高さで、上に開閉用の止め具がついているものを使用。
- 16.3.2.2 4 つ以上のログまたは横木をまたぐ。
- 16.3.2.2.1 横木は直線、カーブ、ジグザグいずれの置き方でもよい。
- 16.3.2.2.2 横木間の距離は馬が通る道筋で計測する：
- 常歩向けの地上横木（高さのないもの）－最短 40～50cm（15～20 インチ）の間隔で設置。
  - 常歩向けの地上横木（高さのあるもの）－最短 56cm（22 インチ）の間隔とし、路面から障害物上部まで最高 30cm（12 インチ）まで持ち上げて設置可能。
  - ジョグ向けの地上横木（高さのないもの）－最短 90～107cm（3 フィート～3 フィート 6 インチ）の間隔で設置。
  - ロープ向けの地上横木（高さのないもの）－最短 2m（6～7 フィート）の間隔で設置。
- 16.3.2.3 後退用障害物
- 16.3.2.3.1 後退で通過する障害物の間隔は、最短で 70cm（28 インチ）、高さがある場合は最短で 75cm（30 インチ）離すものとする。
- 16.3.2.3.2 障害物の横木は 60cm（24 インチ）以上の高さに持ち上げてはならず、また障害物の支柱の掛け金（カップ）または類似の掛け金に設置しなければならない。
- 16.3.2.3.3 含めてもよい障害物：
- 直線通路に常歩で進入し、後退で退出（初心者向け）。ii.3 つ以上のマーカの間や周りを後退で通り抜ける。
  - L 字、V 字、U 字、直線などのコースを後退で通り抜ける。
- 16.3.3 任意の障害物
- 16.3.3.1 常歩、ジョグまたはロープでの蛇乗り障害物の通過。
- 16.3.3.1.1 含めてもよい障害物：
- オレンジ色のセーフティコーン
  - 杭：高さ 2m（6 フィート 6 インチ）程度で、プラスチックや木など安全で適切な素材から成り、馬の進路を妨害しないよう基盤に設置された物
  - バレル（たる）またはクォーターサイズのドラム缶
  - 安全なプランターなどに植えられた植物
  - 木や低木の茂みなどの自然の障害物で、アスリートに危害が及ばないような高さに整えられたもの
- 16.3.3.1.2 各障害物の間隔は以下の基準以上であること：
- 常歩の場合は 2m 程度（6～7 フィート）
  - ジョグの場合は 3m 程度（9～10 フィート）
  - ロープの場合は 10m 程度（33 フィート）
- 16.3.3.1.3 補助を必要とする騎手用のコースを設計する場合、デザイナーは補助者（サイドウォーカー）が通る幅も考慮すること。
- 16.3.3.2 アリーナ内のある場所から別の場所まで物を移動する。その際はビニール袋や金属製の缶を使用してはならない。

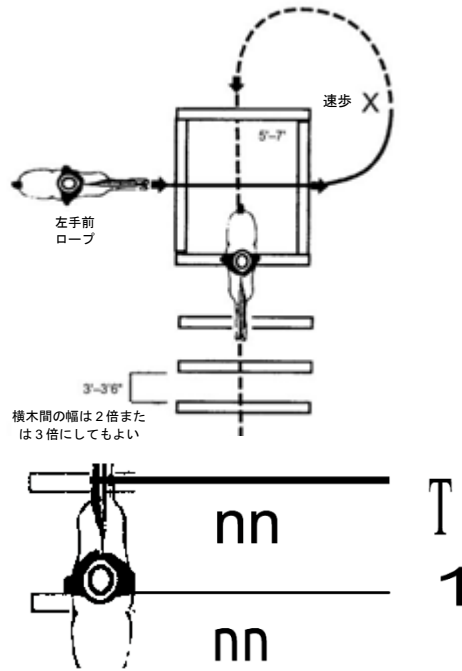


- 16.3.3.3 木製の橋を渡る。
- 16.3.3.3.1 橋は頑丈でなければならない。
- 16.3.3.3.2 橋の幅は 1m (36 インチ) 以上、長さは 1.83m (6 フィート) 以上とする。
- 16.3.3.3.3 推奨する橋は、3/4 インチ厚の合板製で路面に直接設置するもの。推奨サイズ：1.22m (4 フィート) x2.44m (8 フィート)
- 16.3.3.4 レインコート、コート、ベストなどを着脱する。
- 16.3.3.5 郵便受けからものを取り出し、交換する。
- 16.3.3.6 サイドパス
- 16.3.3.6.1 障害物を構成する要素は最高 30cm (12 インチ) の高さまで持ち上げて設置できる。
- 16.3.3.6.2 四肢すべてを障害の中に入れる場合は、障害を構成する要素を最低 1.06m (3 フィート 6 インチ) 離して設置する。前肢のみを障害の中に入れる場合は、障害要素を最低 51cm (20 インチ) 離し、後肢のみの場合は、障害要素を最低 61cm (24 インチ) 離して設置する。
- 16.3.3.6.3 サイドパスは L 字、T 字、V 字、Z 字または直線路内で行い、以下の動きを含めてもよい：
- 後肢または前肢の旋回
  - 狭い空間（通路）に前肢、後肢または四肢を入れる
- 16.3.3.7 1 辺が 1.53m (5 フィート) 以上ある 4 本のログ（横木）で作られたボックスに入りする。アスリートは指定のログをまたいで四角形の中に入り、指定の運動を行い、指定のログをまたいで四角形から出る。
- 16.3.3.8 先端を頑丈にした標準寸法の 2 つの木挽き台の間を通る。木挽き台間の距離は 1.83m (6 フィート) とする。各木挽き台にはゼッケンをかけること。
- 16.3.3.9 低木の茂みの間またはその上を通過する。
- 16.3.3.10 L 字、V 字または Z 字に置かれた地上横木の間で馬を誘導する。
- 16.3.3.11 突っ込んだり飛越したりせずに、溝を出入りする。
- 16.3.3.12 その他外乗りをした際に出会うような安全で通り抜け可能な障害物を含めてもよい（これらの障害物を設計する際は、馬の前肢蹄から後肢蹄までの軸間距離を 1.53m (5 フィート) として計算すること）。これらの障害物の設置については、審判の承認が必要となる。
- 16.3.3.13 2 つ以上の障害物を組み合わせたものを通り抜ける。

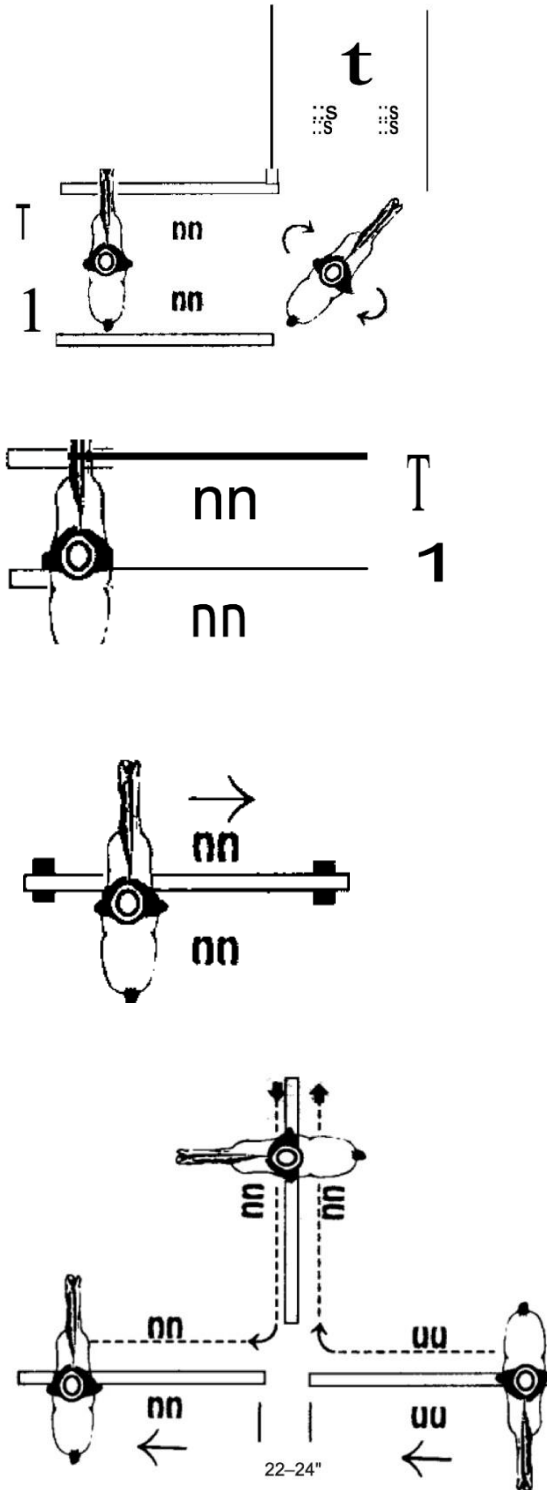
ジョグ通過、ロープ通過、常歩通過の図



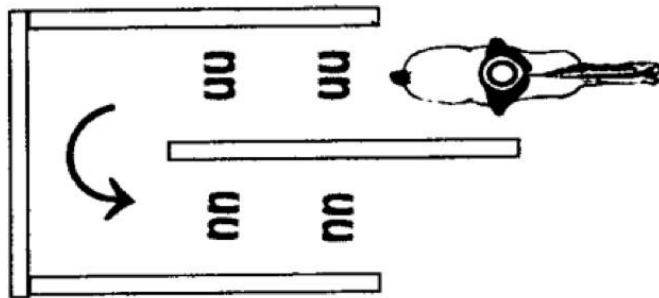
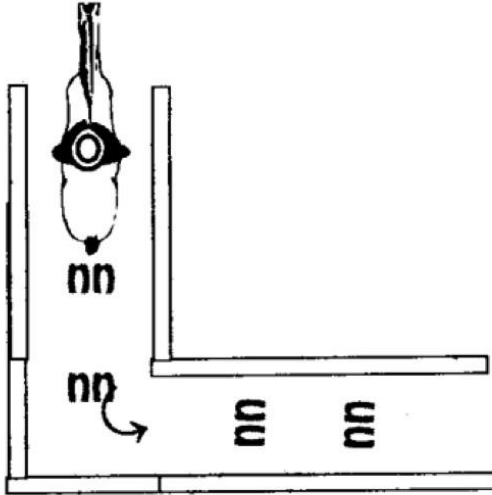
サイドパスのバリエーション図（4図面）





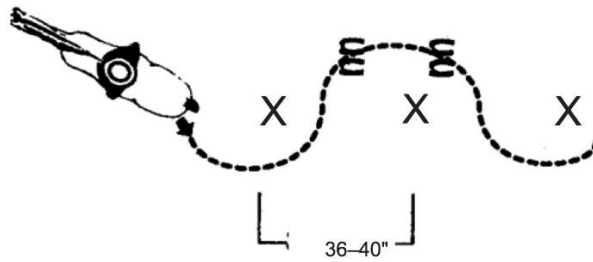
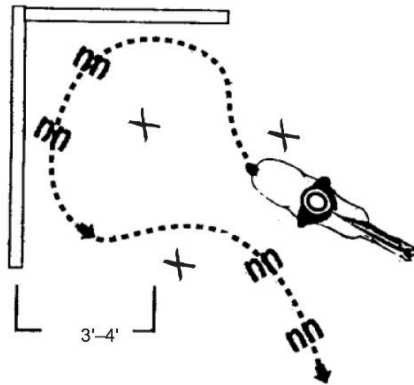
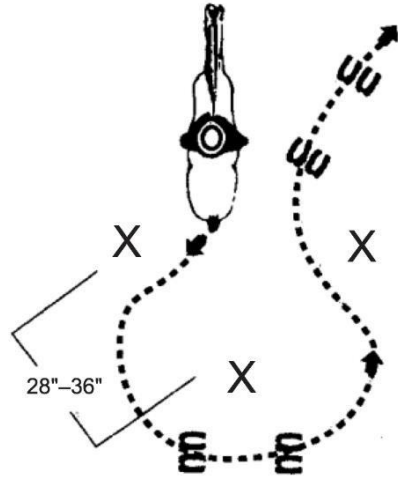


L字後退で通過するバリエーション図



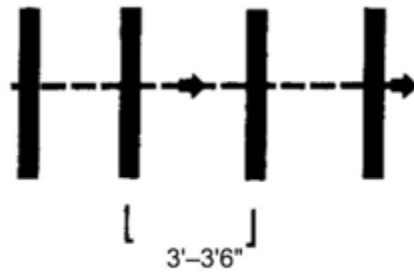
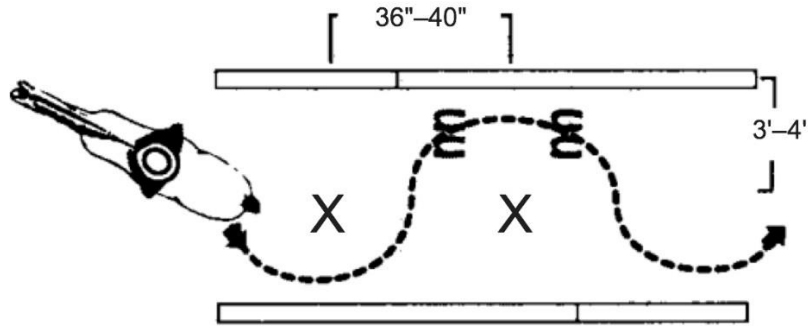


3つのマーカー間および周囲を後退通過するバリエーション図





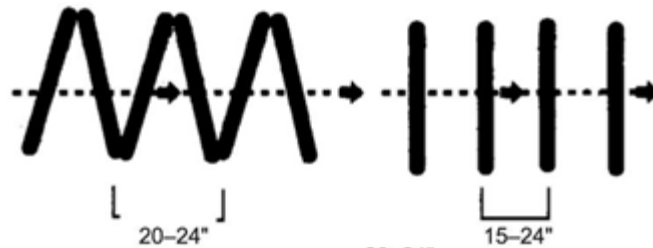
3つのマーカー間および周囲を後退通過するバリエーション図



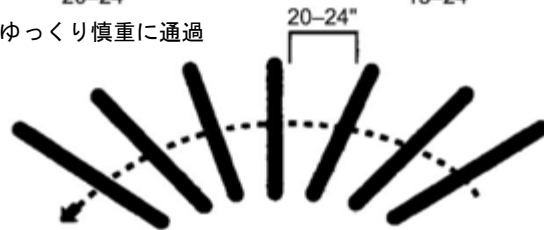
ジョグの横木通過



ロープの横木通過



ゆっくり慎重に通過



カーブ  
型



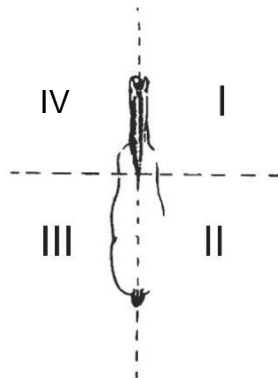
## 17. ブリティッシュ式およびウェスタン式の種目：セクション B：ショーマンシップ

### 17.1 一般事項

- 17.1.1 ショーマンシップクラスにおける重点は、安全性を最も考慮した上で馬を扱い披露するアスリートの能力に置かれるべきである。馬はショーマンの能力を示すための支えにすぎない。
- 17.1.2 ウェスタンスタイルの馬具にて馬を見せるアスリートは、革またはナイロン製の無口やリードシャックを使用してもよい。チェーンリードを使用してもよい。承認された安全ヘルメットを含むウェスタンスタイルの服装が適当である。
- 17.1.3 ブリティッシュスタイルの馬具にて馬を見せるアスリートは、革またはナイロン製の適切なブリティッシュスタイルの頭絡または無口を使用してもよい。（使用可能な頭絡についてはブリティッシュ式エクイテーションのルールを参照のこと。）承認された安全ヘルメットを含むブリティッシュスタイルの服装が適当である。
- 17.1.4 ショーマンシップのクォーターメソッドが使用される。以下の動作参考ガイドラインは、ショーマンシップクラスで展示している馬の周囲での動きを説明することを目的としており、競技者／コーチの参考資料として使用できる。
  - 17.1.4.1 図のとおり、架空の線 2 本で馬を 4 等分する（注：4 等分されたそれぞれに便宜上、I、II、III、IV と番号を振る）。
    - 17.1.4.1.1 線のうち 1 本は、キ甲のすぐ後ろを通るようにする。
    - 17.1.4.1.2 もう 1 本の架空線は頭から尻尾までの中央を通るように結ぶ。
  - 17.1.4.2 アスリートは、以下のやり方で馬の周囲を動くものとする：
    - 17.1.4.2.1 審判が I にいる時、ハンドラー（競技者）は IV に位置しなければならない。
    - 17.1.4.2.2 審判が II へ移動するにつれ、ハンドラーは I へ移動。
    - 17.1.4.2.3 審判が III へ移動した時には、ハンドラーは IV へ移動。
    - 17.1.4.2.4 審判が IV に近づくにつれ、ハンドラーは再度 I へと戻る。
  - 17.1.4.3 このショーマンシップのメソッドは安全の考え方に基づいたものであり、馬が落ち着きをなくした場合にもハンドラーは馬が審判に向け後躯を揺らさないようにコントロールすることができる。
- 17.1.5 競技会の運営側は、個人別の運動課目パターンをクラス開催予定時間より 1 時間以上前に掲示すること。
- 17.1.6 以下の運動は、個人課目パターンとして用いることのできるエレメントである：
  - 17.1.6.1 常歩または速歩（ジョグ／トロット）で馬を誘導
  - 17.1.6.2 直線的に、あるいはカーブを描いて後退
  - 17.1.6.3 停止
  - 17.1.6.4 ピボットまたはターン—90°、180°あるいは 360°



17.1.6.5 正方形の描画



17.2 審査手順

17.2.1 馬場に反時計回り方向で入場し（審判から別途指示がない場合）、活発な常歩で馬場を周回する。注：常歩でも速歩でも引き馬が十分できる状態であること。

17.2.2 クラスが全員整列した段階で、審判は各競技者に引き馬を行うよう個人別に指示する。馬を動かしている際には、馬の動きがはっきり分かるよう審判の視界をさえぎらない注意が必要である。

17.3 審査

17.3.1 馬と競技者の外見：20ポイント

17.3.1.1 馬の身繕い

17.3.1.1.1 清潔でよくブラッシングされた被毛（ホコリ、シミは好ましくない）。

17.3.1.1.2 清潔さが求められる部位：目、耳、口、鼻孔、肢の間、尻尾の周囲は清潔でなければならない。

17.3.1.1.3 タテガミ、尻尾、前髪、キ甲部分の長毛は絡まりなく、清潔にする。前述箇所に飾りをつけることは禁止。タテガミ、前髪、キ甲部分の長毛は、競技者が希望すればブリティッシュ／ウェスタンいずれか適切なスタイルで三つ編みしてもよい。

17.3.1.2 馬の手入れ

17.3.1.2.1 タテガミは短く切るが、前髪とキ甲部分の毛は残さなければならない。

17.3.1.2.2 耳の内部は刈り込まれていること。

17.3.1.2.3 顎、脚および繋の長毛は刈り込まれていること。

17.3.1.3 馬具

17.3.1.3.1 馬具はきちんと整えてあり、清潔で手入れが行き届いていること。

17.3.1.3.2 ウェスタン式に参加する馬は、ナイロンまたは革製の無口を必ず着用すること。

17.3.1.3.3 ブリティッシュ式に参加する馬は、革もしくはナイロン製の頭絡または無口のいずれかを着用する。

17.3.1.4 競技者の外見

17.3.1.4.1 服装と人物：清潔できちんとしている。

17.3.1.4.2 ウェスタンスタイルの馬具に適した服装。

17.3.1.4.3 ブリティッシュスタイルの馬具に適した服装。ジャケット着用は任意。



17.3.2 馬場内での馬の展示：60 ポイント

17.3.2.1 引き馬：40 ポイント

- 17.3.2.1.1 アスリートは馬の左側に立ち、リードシャンク／引き手綱を右手で持ち、引き馬を行う。
- 17.3.2.1.2 リードシャンク／引き手綱は、無口／銜から 2～3cm (8～12 インチ) の位置で持つ。(小柄のアスリートの場合、引き手をより長く持つ必要があるかもしれない。) リードシャンクのチェーン部分を持ってはいけない。持った場合は審判の判断により減点対象となる場合がある。
- 17.3.2.1.3 アスリートは馬と目が合うような近さで、馬の頭のすぐ左に立つ。アスリートは、手あるいは足で馬に触れてはならない。
- 17.3.2.1.4 リードシャンク／引き手綱の余った部分は安全かつ整った状態で左手に持つ。アスリートの左手にきつくリードシャンク／引き手綱を巻いていた場合、減点の対象となる。
- 17.3.2.1.5 緩くはためくリードシャンクや引き手綱は減点対象となる。
- 17.3.2.1.6 馬のコントロールはリードシャンク／引き手綱に加える力を最小限にとどめて軽く行き、馬が自然な状態で頭の位置を維持できるようにすること。また、馬は前進気勢をもって意欲的かつ自由に、そして穏やかに常歩、速歩(ジョグ／トロット)を行う状態が望ましく、アスリートからの扶助はできるだけ少なくとどめる。
- 17.3.2.1.7 アスリートは審判が馬の周りを歩いているときに、馬と審判の間を通過してもよいが、それにより必要以上に審判の視界をさえぎってはならない。アスリートは速やかに、かつ、静かに馬と審判の双方が見える位置に移動すること。
- 17.3.2.1.8 90°以上のすべてのピボットターンは、右回転であること。
- 17.3.2.1.9 アスリートは安全性についても審査されていることを忘れてはならない。アスリートは整列している際、左右または前後のアスリートや馬に近づきすぎず、適切な距離を保つこと。
- 17.3.2.1.10 審判またはリングマスターが位置の移動を求めた場合、アスリートはまず周囲のアスリートがそれぞれの馬を十分コントロールできていることを確認し、指定の位置に速やかに移動すること。

17.3.2.2 ポージング：20 ポイント

- 17.3.2.2.1 アスリートは馬のポーズをとる際に馬の前方、ただし、馬の真正面は避けて向かい合わせに立つ。また、アスリートは審判が常に視界に入るような位置に立つこと。
- 17.3.2.2.2 アスリートは、馬にポーズさせる際には四肢が四角に揃って立っている状態を作ること。リードシャンク／引き手綱を使用して姿勢を作るようにし、馬の足を蹴って立ち位置を修正してはならない。
- 17.3.2.2.3 審判が他の馬を観察している間、アスリートは自分の馬の姿勢ができているのであれば、静かに立たせて待つ。
- 17.3.2.2.4 アスリートは自然体でいること。無理に見せようとするための行為を行ったり、大げさに動いたり、大げさに姿勢をとったりした場合、減点の対象となる。

17.3.3 注意力、総合観察：20 ポイント

- 17.3.3.1 アスリートが審判の位置を常に把握している。



- 17.3.3.2 アスリートは常に馬の展示に集中し、馬場外の人や出来事に注意をひかれていない。アスリートは、クラスの順位が付き、馬場からの退場の指示があるまで常に展示を行っているという意識を持っている。
- 17.3.3.3 アスリートは常に審判またはリングマスターからの指示を注意深く聞き、協力的な態度を取っている。
- 17.3.3.4 アスリートはてきぱきしていながらも、親しみやすく礼儀をわきまえ、競技役員や他のアスリートに対しスポーツマンシップ精神に則った態度で競技に臨んでいる。

#### 17.4 減点対象

- 17.4.1 馬の身繕いや手入れが不十分
- 17.4.2 安全検査あるいは引き馬の間、競技者の位置が不適切
- 17.4.3 手綱を持ち替える、チェーンをつかみ続ける、手綱が路面に引き摺られている
- 17.4.4 安全検査のために、馬を四つ足でまっすぐ立たせることができない、あるいは立たせるまで時間がかかり過ぎる
- 17.4.5 馬が後方または前方にのけぞる
- 17.4.6 運動が指定されたマーカで行われていない
- 17.4.7 馬に触る
- 17.4.8 極度の反抗

## 18. ブリティッシュ式およびウェスタン式種目：ジムカーナ

### 18.1 一般事項

- 18.1.1 馬具
  - 18.1.1.1 エクイテーションクラスの要件に基づく鞍と頭絡。
  - 18.1.1.2 禁止用具：
    - 18.1.1.2.1 なげ縄あるいはつなぎ縄
    - 18.1.1.2.2 ハッカモア銜
    - 18.1.1.2.3 タイダウン
    - 18.1.1.2.4 ドローレイン
    - 18.1.1.2.5 ボザール
    - 18.1.1.2.6 あご革の一部に針金、金属あるいは生皮を使用したもの
    - 18.1.1.2.7 標準的な蹄鉄以外のもの

### 18.1.2 ジムカーナ種目の実施

- 18.1.2.1 すべての種目は計時される。最も速いタイムの競技者が1位となる。
- 18.1.2.2 騎手は仕切られた馬場でコースを開始する必要があるため、すべてのゲートが閉められ固定されるまで開始しないこと。騎手がコース走行を終え、常歩に戻る、あるいは停止するまでゲートを開かないこと。
- 18.1.2.3 各アスリートは、ランニングスタートで競技を開始する。馬の鼻先がスタートラインを切った時点からタイム計測を開始する。
- 18.1.2.4 タイム計測はゴールラインを馬の鼻先が通過した時点で終了する。
- 18.1.2.5 以下の行為については、5秒のペナルティを課す：
  - 18.1.2.5.1 横木またはたるの引き倒し（アスリートは、ポールあるいはたるを倒さなければペナルティ無くそれらに触ることが許される）。
  - 18.1.2.5.2 デイビジョンごとに規定された歩様以外で走行した運動の3間歩ごと。
- 18.1.2.6 以下の行為については、失格と評価される：
  - 18.1.2.6.1 コース外の走行。
  - 18.1.2.6.2 マーカー間に設定されたスタート／ゴールラインを通過しない。





18.1.2.6.3 アスリートが馬場内にいる時間の間ずっと、ヘルメットのおご紐を正しく締めていない。

18.1.2.6.4 コース走行後に再びスタート／ゴールラインを通過する。

18.1.2.6.5 こん棒、短鞭、長鞭あるいはロープを過剰に使用したと審判に判断された場合。

18.1.2.7 引き分けとなった場合、同じコースを使い勝者を決める再走行を行う。再走行において勝者となった競技者の走行タイムは前回走行タイムの $\pm 5$ 秒以内でなければならない。該当しないタイムになった場合はやり直しとなる。

### 18.1.3 施設と設営

18.1.3.1 スタートラインを示すマーカーや電子計時板は、可能な限りアリーナ壁際に設置すること。

18.1.3.2 スタート／ゴールラインははっきりと示されなければならない。

18.1.3.3 コースは正確な計測に基づき設置する。

### 18.1.4 審査用紙一次のページを参照のこと



決勝

エクイテーション 8の字パレルレースおよびポールベンディング 審査用紙

競技名: \_\_\_\_\_

ディビジョン:

日付:

レベル:

アスリート情報	コース	タイム	ペナルティ (秒)	合計	順位

コース: 「コース違反」は失格となる

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_



決勝

チームリレー審査用紙

競技名: EQ エクイテーションチームリレー

ディビジョン:

日付:

レベル: BI

チーム番号	アスリートの氏名および番号	コース	ペナルティ(秒)	タイム	合計	順位

コース: 「コース違反」は失格となる

審判氏名: \_\_\_\_\_

審判の署名: \_\_\_\_\_

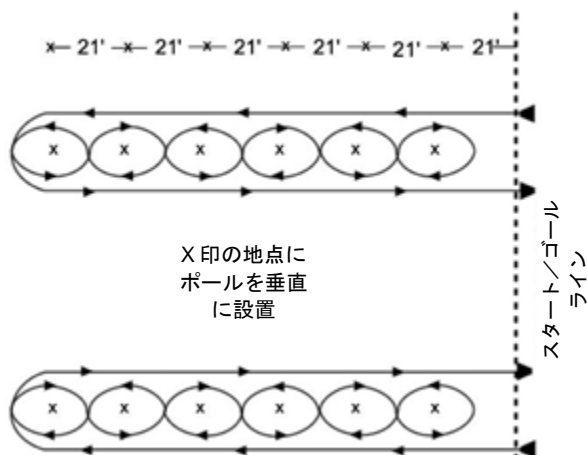


18.2 ポールベンディング

種目	CS	CI	BS	BI	A
ポールベンディング	不可	不可	不可	可	可

18.2.1 施設と設営

- 18.2.1.1 倒されたポールを設置しなおす役割を持つ者を 1 人、馬場に配置する。その担当者は、騎手を動揺させたり邪魔をしたりしないよう、騎手が倒れたポールから遠く離れた後に素早くポールを動かすこと。
- 18.2.1.2 ポールベンディングのコースは 1 直線に設置した 6 つのポールの周囲を走行するパターンとする。
- 18.2.1.3 各ポールは 6.4m (21 フィート) 間隔で設置する。最初のポールはスタートラインから 6.4m (21 フィート) の位置に設置すること。
- 18.2.1.4 ポールの高さは路面から 1.83m (6 フィート) 以上とする。路面の基部の直径は 37cm (14 インチ) を超えないようにする。



18.2.2 コース走行の実施：馬は、最初のポールの左右どちらの側から開始してもよく、その後はコースパターンに従って走ることができる。以下の指示は、最初のポールを右側から開始した馬の場合である。

- 18.2.2.1 スターターの合図にて、アスリートは：
  - 18.2.2.1.1 ポールの右側を列の最後のポールまで走る。
  - 18.2.2.1.2 最後のポールで左に曲がる。
  - 18.2.2.1.3 最初のポールに辿り着くまで、左右交互にポールを通過しながらジグザグ走行。
  - 18.2.2.1.4 最初のポールで右に曲がる。
  - 18.2.2.1.5 最後のポールに辿り着くまで、左右交互にポールを通過しながらジグザグ走行。



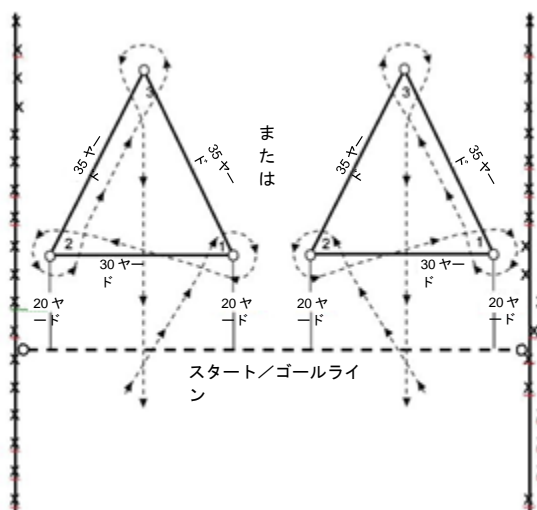
18.2.2.1.6 最後のポールにて左に曲がり、ポール際を一直線に走り、ゴールラインを超える。

18.3 バレルレース（ウェスタン式のみ）

種目	CS	CI	BS	BI	A
バレルレース	不可	不可	不可	可	可

18.3.1 施設と設営

- 18.3.1.1 3つのバレル（たる）を以下の寸法で三角形に設置すること：
  - 18.3.1.1.1 バレル1、2は27.43m（90フィート）の間隔で、スタート／ゴールラインから18.29m（60フィート）の位置に設置する。
  - 18.3.1.1.2 バレル3はバレル1、2からそれぞれ32m（105フィート）離れた中央（三角形の頂点）に設置する。図を参照。
- 18.3.1.2 使用できる馬場の面積に対してコースが大き過ぎる場合、パターンを4.57m（15フィート）ずつ、馬場に入る大きさまで縮小する。その際は、バレルやいかなる障害物の間にも、十分な距離をとること。バレル3とゴールライン間の距離は、馬が停止するために十分な広さがある場合は、縮小する必要はない。
- 18.3.1.3 バレルコース用に馬場計測を行う際は、馬がターンするために必要な十分な広さを残すこと。
- 18.3.1.4 スタート／ゴールラインから馬場の端まで少なくとも13.77m（25フィート）を確保すること。
- 18.3.1.5 スタート／ゴールラインの両端にポールを立て目印とする。
- 18.3.1.6 明るい色の55ガロンのプラスチックまたは金属性のドラム缶を使用してもよい。



18.3.2 コース走行の実施—バレルコースは、左右どちらかの側から走行してもよい。以下の指示は右側からの走行を示す。



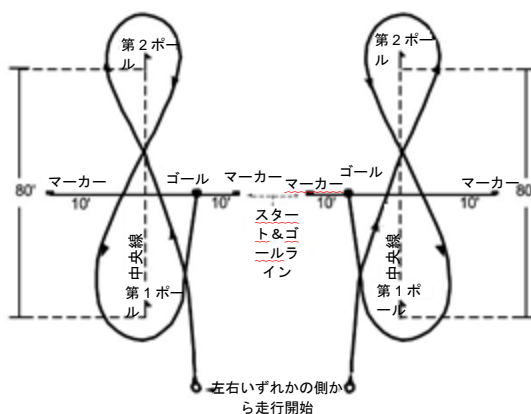
- 18.3.2.1 スターターの合図にて、アスリートは:
  - 18.3.2.1.1 バレル 1 に向かい、その左側を通過した後にバレルに沿ってほぼ 360° 回転する。
  - 18.3.2.1.2 バレル 2 に向かい、その右側を通過した後にバレルに沿って 360°をやや上回り回転する。
  - 18.3.2.1.3 バレル 3 に向かい、その右側を通過した後にバレルに沿ってほぼ 360° 回転する。
  - 18.3.2.1.4 その後、バレル 1 と 2 の間を通過するようにゴールラインに向かって走る。

18.4 8 の字ステークレース (ウェスタン式のみ)

種目	CS	CI	BS	BI	A
8 の字	不可	不可	不可	可	可

18.4.1 施設と設営

- 18.4.1.1 スタート／ゴールラインは 2 つのマーカーで示し、マーカーは 6.1m (20 フィート) 離して垂直に設置する。
  - 18.4.1.1.1 マーカーは 8 の字の中央線の左右 3m (10 フィート) の位置に設置する。電子計時板と干渉しないよう、十分低くすること。
- 18.4.1.2 中央線を示す第 1、第 2 ポールはそれぞれスタート／ゴールラインから 12m (40 フィート) の位置に設置する。従って第 1、第 2 のポール間の距離は 24m (80 フィート) となる。



18.4.2 コース走行の実施：8 の字の両端のどちらからでも走行を開始してよい。騎手は、8 の字を走行することができる限り、最初に左右どちら回りをしてもよい。以下の指示は、最初に右回りした場合である。

- 18.4.2.1 スターターの合図にて、アスリートは:
  - 18.4.2.1.1 垂直に設置されたマーカー間の中央線を横切りながらスタートし、第 2 ポールへ向かう。
  - 18.4.2.1.2 第 2 ポールの周りを右回りする。
  - 18.4.2.1.3 第 1 ポールへ向かう。
  - 18.4.2.1.4 第 1 ポールの周りを左回りし、8 の字を完成させる。



18.4.2.1.5 戻ってスタート／ゴールラインを横切ることで走行を終える。

18.4.2.2 失格：

18.4.2.2.1 アスリートが第2ポールにて回転する前に、マーカー間のスタート／ゴールラインを通過しなかった場合。

18.4.2.2.2 アスリートが第2ポールにて回転し、第1ポールへ向かう途中でスタート／ゴールラインを通過しなかった場合。

18.4.2.2.3 スタート／ゴールラインを示すマーカーを倒した場合。

18.5 チームリレー

種目	CS	CI	BS	BI	A
チームリレー	可	可	可	可	可

18.5.1 一般事項

18.5.1.1 レベル A において駈歩は行わない。レベル A において騎手はチームリレーを速歩で行う。

18.5.1.2 同じディビジョンにいるチームは騎手の人数が等しくなるようにし、2名、3名、4名のいずれかとする。この点に関して、大会運営側はエントリー情報またはコーチハンドブックに記載しなければならない。

18.5.1.3 安全に行うことができる場合、2チームが同時に競技してもよい。

18.5.1.4 チームの第1走者の馬の鼻先がスタートラインを切った時点から、タイム計測を開始する。

18.5.1.5 タイム計測はゴールラインを最終走者の馬の鼻先が通過した時点で終了する。

18.5.1.6 バトンの使用は禁止されている。騎手は前走の馬の鼻先がゴールラインを切った時点で、スタートすること。

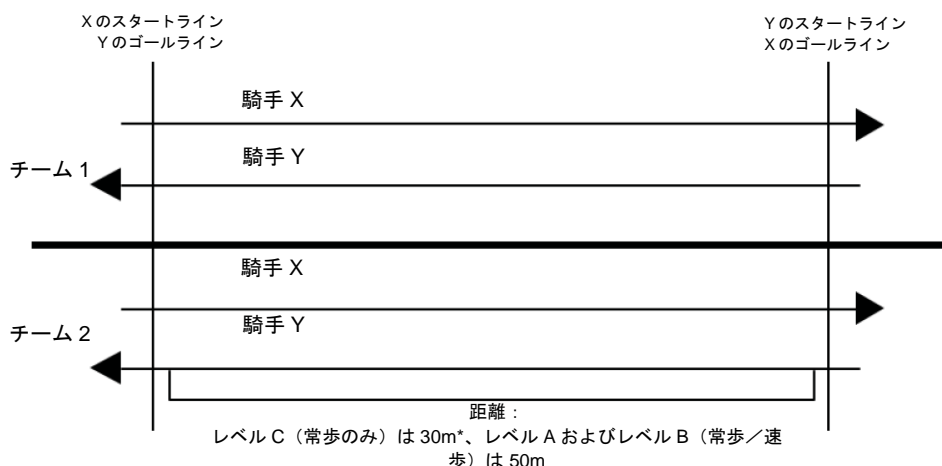
18.5.1.7 ホースハンドラーが参加する場合は、馬の鼻先より後を歩かなければならない。ホースハンドラーが馬の鼻先より前に出た場合、その騎手はレースを継続する前にその場で常歩で巻き乗りをしなければならない。

18.5.1.8 チームを構成せずに参加した騎手はパートナーをくじ引きで決定してもよい。

18.5.2 施設と設営

18.5.2.1 コース設計により、常歩のみのディビジョン（レベル CI/CS）専用のコースの距離を合計 30m（98 フィート 5 インチ）、および速歩のみのディビジョン（レベル A/BI/BS）専用のコースの距離を合計 50m（164 フィート）とすること。

18.5.2.2 リレーの推奨パターンとしては、バレル、ポールや 8 の字ステークレースあるいは簡潔な直線レースなどを用いること。



## 19. グループ種目：2名&4名のドリルチーム

### 19.1 一般事項

- 19.1.1 アリーナは小さなドレッサージュ競技（馬場馬術）用の馬場で、騎手が参考にするための地点表記の示されているものとする。
- 19.1.2 ブリティッシュスタイルあるいはウェスタンスタイルの馬具が使用される。頭絡や鞍に関するすべてのルールは、エクイテーションクラスに関するガイドラインに従ってなければならない。
- 19.1.3 アスリートは、馬術一般の服装ルールに従いヘルメットとブーツを着用しなければならない。
- 19.1.4 アスリートは、安全のために要求されている衣類の着用を順守しなければならない。
- 19.1.5 衣装を身につける場合、アスリートおよび馬のいずれの安全も妨げるものであってはならない。馬と騎手が競技前に衣装に慣れるよう、すべての衣装は練習で着用しておく必要がある。
- 19.1.6 読み上げ担当者はドリルにおいて経路の指示を行うことができるが、ドレッサージュ競技およびウェスタン騎乗の該当するルールに従うこと。

### 19.2 審査—200点満点

- 19.2.1 チーム（馬と騎手）：35点満点
  - 19.2.1.1 衣装=5点
  - 19.2.1.2 揃った演技=10点
  - 19.2.1.3 外見=10点
  - 19.2.1.4 態度=10点
- 19.2.2 演技：130点満点
  - 19.2.2.1 演出全般=80点
  - 19.2.2.2 スピード=10点
  - 19.2.2.3 タイミング=10点
  - 19.2.2.4 空間利用=10点
  - 19.2.2.5 正確さ=10点
  - 19.2.2.6 位置取り=10点
- 19.2.3 効果：35点満点
  - 19.2.3.1 運動、図形等の適切さ=20点





19.2.3.2 特殊効果（音楽、道具等）＝15点

19.3 チーム構成

19.3.1 ドリルチームは、異なるディビジョンの騎手によって構成されてもよいが、騎手はドリルの実施において各人のディビジョンで規定された運動以外は行ってはいけない。

19.3.1.1 ディビジョンCの騎手は、速歩（トロット／ジョグ）を行ってはならないし、要求してもならない。

19.3.1.2 ディビジョンBの騎手は、駈歩（キャンター／ロープ）を行ってはならないし、要求してもならない。

19.3.1.3 ディビジョンAの騎手は、必ずしも駈歩（キャンター／ロープ）を行う必要はない。

19.4 テーマー音楽や衣装によって演出してもよい：

19.4.1 アスリートがしっかりとした視界や動きを確保できるよう、衣装をデザインする際に注意が必要である。

19.4.2 安全は最優先事項とする。鞍や馬にアスリートを結び付けてはならない。

19.4.3 馬への装飾は馬の動きや視界を妨げないようにする必要がある。ぶらさがっていたり、はためいていたりする衣装は避ける。

19.4.3.1 馬は、衣装を着用して練習する必要がある。

19.4.3.2 馬が全方向から衣装を確認できるよう、衣装を身につけてすべての規定運動を通して行うことが賢明である。

**20. グループ種目：ユニファイドスポーツ®チームリレー**

20.1 ユニファイドスポーツ®リレーチームは、2人あるいは4人の騎手により構成される。

20.2 求められるアスリート－パートナー比率

競技中は、チームは常にアスリートとパートナーが1人ずつ参加していなければならない（4人チームの場合は、アスリートとパートナーがそれぞれ2人ずつとする）。この規定の人数比率を順守しなかった場合は、失格となる。

20.3 常歩のみ、および速歩のみのディビジョンが実施される。

20.4 ジムカーナ種目のチームリレールールを参照すること。

**21. グループ種目：ユニファイドスポーツ®ドリルチーム**

21.1 ユニファイドスポーツ®ドリルチームは、2人あるいは4人の騎手により構成される。

21.2 求められるアスリート－パートナー比率

競技中は、チームは常にアスリートとパートナーが1人ずつ参加していなければならない（4人チームの場合は、アスリートとパートナーがそれぞれ2人ずつとする）。この規定の人数比率を順守しなかった場合は、失格となる。

21.3 上記のドリルチームルールに関するルールを参照すること。





22.1 別表 B：馬のプロフィール

馬のプロフィール

馬名 \_\_\_\_\_ 馬齢 \_\_\_\_\_

性格 \_\_\_\_\_

高さ \_\_\_\_\_ パレルサイズ：細身 \_\_\_\_\_ 平均的 \_\_\_\_\_ 太め \_\_\_\_\_

歩様

常歩： 安定 \_\_\_\_\_ 自由な動き \_\_\_\_\_

正反撞速歩： 非常に滑らか \_\_\_\_\_ 自由な動き \_\_\_\_\_

軽速歩： 安定 \_\_\_\_\_ 多少の跳ね \_\_\_\_\_ 自由 \_\_\_\_\_

駢歩： 安定 \_\_\_\_\_ 自由な動き \_\_\_\_\_

速歩： 非常に滑らか \_\_\_\_\_ 自由な動き \_\_\_\_\_

その他の歩様： 非常に滑らか \_\_\_\_\_ 自由な動き \_\_\_\_\_

手綱とのコンタクト： 軽い \_\_\_\_\_ 中程度 \_\_\_\_\_ 重い \_\_\_\_\_

馬の乗降：

通常 \_\_\_\_\_ スロープ \_\_\_\_\_ 階段 \_\_\_\_\_ リフト \_\_\_\_\_

特別な馬具／用具の使用受入れ

(通常と異なる鞍、鐙、ウエストベルト、その他)：可 \_\_\_\_\_ 不可 \_\_\_\_\_

ハンドラーやサイドウォーカーの受入れ：可 \_\_\_\_\_ 不可 \_\_\_\_\_

鞭の使用に対する反応：強い \_\_\_\_\_ 平均的 \_\_\_\_\_ 弱い \_\_\_\_\_

カラフルな障害物への順応：有り \_\_\_\_\_ 無し \_\_\_\_\_

種目への参加歴

ドレッサージュ競技 (馬場馬術) 有り \_\_\_\_\_ 無し \_\_\_\_\_

ブリカブレリ 有り \_\_\_\_\_ 無し \_\_\_\_\_

障害飛越 有り \_\_\_\_\_ 無し \_\_\_\_\_

ジムカーナ 有り \_\_\_\_\_ 無し \_\_\_\_\_

ポニー競技 有り \_\_\_\_\_ 無し \_\_\_\_\_

その他

悪癖がある場合

氏名と署名



22.2 別表 C：ブリティッシュ式種目用語辞典

用語

- 22.2.1 「オンザビット（銜受け）」：銜を受けている馬は、抵抗なく手綱の軽いコンタクトを受け入れ、騎手の拳に従って顎と項を動かす。さらに、馬は手綱に従い前進するよう指示する騎手の扶助を受け入れる。銜を受けている馬は背中が柔らかい状態で運動し、移行の際に抵抗を示さず、騎手に従順な状態を維持する。
- 22.2.2 移行とは、運歩や歩度を変えることをいう。移行は速やかに行うべきだが、滑らかかつ突発的でない動きでなければならない。移行の際も馬との間で軽いコンタクトを保ち、馬が落ち着いた状態で正しい姿勢を維持していなければならない。
- 22.2.3 停止：停止の際は馬は注意深く立ち、不動かつ真直であり、体重は四肢に均等にかける。これは馬の両前肢・後肢が横に並んでいるかどうかで見分けがつく。
- 22.2.4 斜体歩：軽速歩においては、騎手は外側の前肢が前に出たときに立ち、内側の前肢が前に出たときに座る。
- 22.2.5 手前変換：駈歩においては、内側の前肢が足取りを導くようにすること。騎手が方向を変えるときは、以下のうちいずれかの方法で馬の先行する足を変えるか手前変換をしなければならない：
  - 22.2.5.1 馬を一度停止させてからの手前変換では馬を完全に停止させたのち、直ちに正しい手前での駈歩発進を行う。
  - 22.2.5.2 シンプルチェンジでは、常歩または速歩を入れたのち、逆の手前での駈歩発進を行う。常歩または速歩は3～4間歩以内とする。
  - 22.2.5.3 フライングチェンジでは、馬が駈歩を継続したまま空中の間歩の中で手前変換を行う。前肢と後肢が同時に変換されなければならない。
- 22.2.6 半巻き乗り／リバース：半巻き乗り／リバースは方向変換であり、蹄跡から外れる方向へ行う。
  - 22.2.6.1 方向変換においては、馬は新しく進む線に沿ってその体を屈曲させる。
  - 22.2.6.2 馬は柔軟な状態のまま、運歩やリズム、歩度を変えることなく騎手の扶助に従わなければならない。
  - 22.2.6.3 軽速歩においては、騎手は斜め手前変換をする。
  - 22.2.6.4 駈歩においては、馬は手前変換を行う。

22.3 服装

- 22.3.1 短い、濃い色の乗馬ジャケット。
- 22.3.2 地味な色の（白が好ましい）乗馬用ショーシャツ。またはオックスフォードスタイルの長袖または半袖のシャツ
- 22.3.3 ネクタイまたはチョーカー。
- 22.3.4 乗馬ズボン。
- 22.3.5 手袋の着用は任意。
- 22.3.6 悪天候の場合、アスリートはヘルメットカバーや地味な色のレインコートの着用が認められる。
- 22.3.7 極度に高温な日（80F<sup>o</sup>、27C<sup>o</sup>以上）には、審判の判断により乗馬ジャケットを着用せずに競技に参加することを認める場合がある。
- 22.3.8 踵のあるブーツ。
- 22.3.9 承認されたヘルメット。

22.4 馬具

- 22.4.1 タイプは問わないがブリティッシュ鞍を使用すること。
- 22.4.2 先端を含めて長さ1m（3フィート3.5インチ）以内の鞭1本を所持してもよい。鞭の使用は、鞭を使用されることに馬が慣れていると馬主が述べた場合に限り、許可される。騎手の脚力が弱い場合、自由に動かせる馬か鞭の使用に慣れた馬を割り当てなければならない。

22.5 鏡

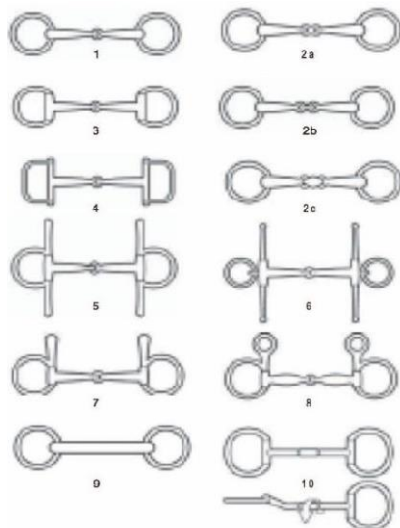
- 22.5.1 騎手が適切なブーツを履けない場合以外、安全鏡の使用は必須としない。
- 22.5.2 騎手は、大会運営側が持込みを禁止し、競技会の前にエントリー情報やコーチハンドブック



クにてその旨を明記していない限り、安全用鍔と鍔革を必ず持参すること。

22.6 頭絡

- 22.6.1 通常のカブソン鼻革（フランス鼻革）、ドロップ鼻革（ドイツ鼻革）、クロス鼻革（メキシカン鼻革）、もしくはフラッシュ鼻革（コンビ鼻革）を使用すること。
- 22.6.2 水勒銜を使用すること。
- 22.6.3 すべての銜は滑らかで頑丈でなければならない。
- 22.6.4 馬の口に入る銜のすべての部分（すなわち銜身）は、2つまたはそれ以上の金属又は材質で作られるものとする。



水勒銜の種類：

1. ルーズリング銜環
2. (a、b、c) 中央のジョイント部が丸みを帯びたジョイント銜身の銜環
3. エッグバット銜環
4. レース用Dリング銜環
5. チーク付きエッグバット銜環（フルマー）
6. チーク付きルーズリング銜環
7. アッパーハーフチーク銜環
8. ハングングチーク銜環
9. 棒銜環
10. 回転式銜身の付いた銜環

22.7 騎手の姿勢

22.7.1 騎手は、演技者らしい外見でなければならない。騎座と拳は軽く柔軟でなくてはならない。また騎手は緊急の場合にも落ち着いている印象を与えなければならない。

22.7.2 基本姿勢：

- 目線は上
- 肩は後ろに引いた状態
- 上体は真っ直ぐだが、堅苦しくない
- つま先は騎手の体型にあわせて最も適切な角度をもつ
- 踵は下げる
- ふくらはぎと太ももは馬に触れていて腹帯よりやや後にある
- 鍔は親指の付け根あたりで踏む（腹帯に結び付けてはいけない）

22.7.3 拳の位置

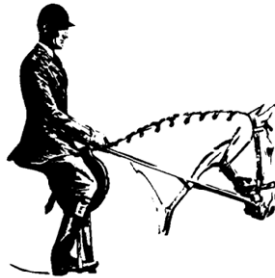
- 拳は左右に若干開き、馬の甲の上かつ前の位置に置く。指の付け根を内側に30度傾け、馬の口から騎手の肘までが直線になるようにする。



- 手綱の持ち方は自由で、余った部分は左右どちらに垂らしてもよい。
- 左右の手綱を同時に持たなければならない。

22.8 運動中の姿勢：

- 22.8.1 常歩、正反撞の速歩、駈歩では上体は垂直か、やや前傾姿勢。  
 22.8.2 軽速歩では上体を前傾姿勢か、垂直姿勢。  
 22.8.3 襲歩、障害飛越では上体を前傾姿勢か、垂直姿勢。



22.9 別表 D：ウエスタン式種目用語辞典

- 22.9.1 手前変換：ロープにおいては、内側の前肢が足取りを導くようにすること。騎手が方向を変えるときは、以下のうちいずれかの方法で馬の先行する足を変えるか手前変換をしなければならない：
- 22.9.1.1 馬を一度停止させてからの手前変換では馬を完全に停止させたのち、直ちに正しい手前でのロープ発進を行う。
- 22.9.1.2 シンプルチェンジでは、常歩またはジョグをいれたのち、逆の手前のロープへ移行する。常歩またはジョグは3～4間歩以内とする。
- 22.9.1.3 フライイングチェンジでは、馬がロープを継続したまま空中の間歩の中で手前変換を行う。前肢と後肢が同時に変換されなければならない。
- 22.9.2 ジョグ：ウエスタン式規律として扱われるゆっくりとした速歩。
- 22.9.3 ロープ：ウエスタン式規律として扱われるゆっくりとした駈歩。
- 22.9.4 半巻き乗り／リバース：半巻き乗り／リバースは方向変換であり、蹄跡から外れる方向へ行われる。
- 22.9.4.1 方向変換においては、馬は新しく進む線に沿ってその体を屈曲させる。
- 22.9.4.2 馬は柔軟な状態のまま、運歩やリズム、歩度を変えることなく騎手の扶助に従わなければならない。
- 22.9.4.3 ロープにおいて、馬は手前変換をしなければならない。

22.10 服装

- 22.10.1ズボン／ジーンズ  
 22.10.2襟付きで地味な色の長袖シャツ  
 22.10.3ベルトループを通したベルト  
 22.10.4ネクタイ、スカーフ、ループタイ、チャップス、手袋は着用してもよい。  
 22.10.5すべてのジムカーナ種目、ショーマンシップのクラスでは、チャップスの着用は禁止される。  
 22.10.6承認されたヘルメットの上にウエスタンハットをかぶるのは自由であり、必須ではない。  
 22.10.7滑らかな足底と踵のついたブーツあるいは靴が望ましい。  
 22.10.8拍車の使用は自由である。

22.11 馬具



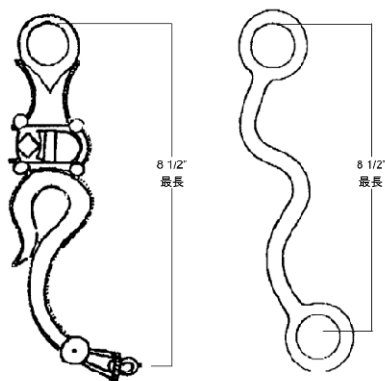
22.11.1 鞍

- 22.11.1.1 鞍は騎手に合ったものでなければならない。
- 22.11.1.2 前橋（フォーク）はスリック型でもスウェルド型でもよく、後橋の高さは高低問わない。
- 22.11.1.3 鐙は自由にぶらさがっている状態でなくてはならず、それを妨げるものを通常のウェスタン鞍から加えたり取り除いたりしてはならない。
- 22.11.1.4 安全鐙は必須とする。

22.11.2 銜と頭絡

- 22.11.2.1 一般的なウェスタン銜は最大で全長 21cm（8.5 インチ）のシャンクがついているものと定義される。シャンクは固定されている場合と、されていない場合がある。
- 22.11.2.2 銜身（マウスピース）は直径 75mm（3/8 インチ）から 3cm（3/4 インチ）以内の棒銜身やジョイント銜身などの金属製のバーである。
- 22.11.2.3 銜の中央に付属するローラー以外は銜身の水平面より下に伸びていてはならない。
- 22.11.2.4 ポートは高さ 89mm（3.5 インチ）以下とすること。
- 22.11.2.5 手綱はシャンクにそれぞれつなげなくてはならない。
- 22.11.2.6 あご革またはくつわ鎖（カーブチェーン）を使用してもよいが、最低 1cm（0.5 インチ）以上の幅があり、馬の顎に対してちょうど合うものでなければならない。

使用可能なシャンク（銜）



使用可能なあご紐（チンストラップ）



22.12 騎手の姿勢

- 22.12.1 騎手は騎座、拳、馬の演技、人馬の組み合わせ、騎手にとっての馬との相性について審査される。
- 22.12.2 基本姿勢：
  - 22.12.2.1 体全体が無理なく、リラックスし、柔軟な状態。
  - 22.12.2.2 騎手は鞍の中央に座る。横から見て脚は耳から、肩と腰の中心を通り、踵の後ろまでが一直線になるような位置に落とす。
  - 22.12.2.3 鐙は踵がつま先よりやや下の位置で、膝を軽く曲げ、膝の直下につま先を置けるような長さが適切。
  - 22.12.2.4 足は鐙に乗せ、足の親指の付け根あたりに体重をかける。ウェスタンでは鞍によって鐙の幅が異なる点を考慮する。幅が広い場合、重心の位置が適切に足の付け根に置かれている際にも、一見すると間違っているように見えることがあるので注意が必要である。



22.12.2.5 腕はリラックスさせ無理ない状態にし、肩は後方に引いて下げておく。上腕は体幹と一直線にする。手綱を持っている腕は肘をまげ、肘から馬の口が一直線になるような姿勢にする。

22.12.3 拳：

22.12.3.1 手綱は片方の拳で持ち、左右持ちかえてはならない。ただしトレイル競技において、障害物を通過する際に手綱の持ちかえが認められる場合は除く。

22.12.3.2 手綱は、両拳で持つ必要があるハッカモア銜や水勒銜を使用している馬に乗る場合を除いて、片手に持たなければならない。

22.12.3.3 手綱をもった手はホーンの上方におき、できるだけホーンの上に保つ。ホーンや輪にした投げ縄（レアータノラツソ）に拳を乗せることは減点対象となる。

22.12.3.4 スプリット・レインを使用する場合、手綱の端は手綱をもった手と同じ側に垂らす。その際、手綱の間に指を1本入れてもよい。スプリット・レインの端を手綱を持っていない手に握る場合は、手綱の間の指は許可されない。

22.12.3.5 ロマール・レインを使用する場合、手綱の間に指を置いてはならない。

22.12.3.6 手綱を持っていないほうの手の位置は自由だが、馬や用具に触れず、常にリラックスした状態で騎手の体と一直線であるのが望ましい。

22.12.3.7 騎手は手綱をもった手から41cm（16インチ）以上離していれば、ロマール・レインまたはスプリット・レインの端を持って手綱を安定させたり手綱の長さ調節を行ったりしてもよい。

22.12.4 運動中の姿勢：

22.12.4.1 騎手は正反撞速歩を行い、軽速歩を取らないこと（ディビジョンルールに特記されていない限り）。

22.12.4.2 ロープでは、騎手は鞍にできるだけ密着して座ること。

22.12.4.3 馬の動きは微小な扶助によって制御されるべきであり、大げさな体重移動は望ましくない。

